第4回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　次第

日　時　令和６年３月27日(木)
15:00～16:45
場　所　熊谷市立文化センター文化会館　第一練習室

１ はじめに、開　会

２ 議　　事

（１）報告事項

１）第３回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返り　　資料１

（２）審議・質疑・意見交換

１）かわまち計画書（案）　　資料２

２）かわまちづくりの今後の進め方　　資料３・４

３ おわりに、閉　会

【配布資料】
・次第
・第４回熊谷市荒川かわまちづくり協議会出席者名簿／座席表
・資料１　第３回熊谷市荒川かわまちづくり協議会議事要旨
・資料２　熊谷市荒川かわまちづくり計画（案）
・資料３　地域協働によるかわまち野原再生プロジェクト（案）
・資料４　今後の進め方について
　　（スケジュール、役割分担と推進体制）（事務局案）
・別紙１　第３回協議会意見の対応一覧

以上

第４回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　出席者名簿(令和７年３月27日）９名

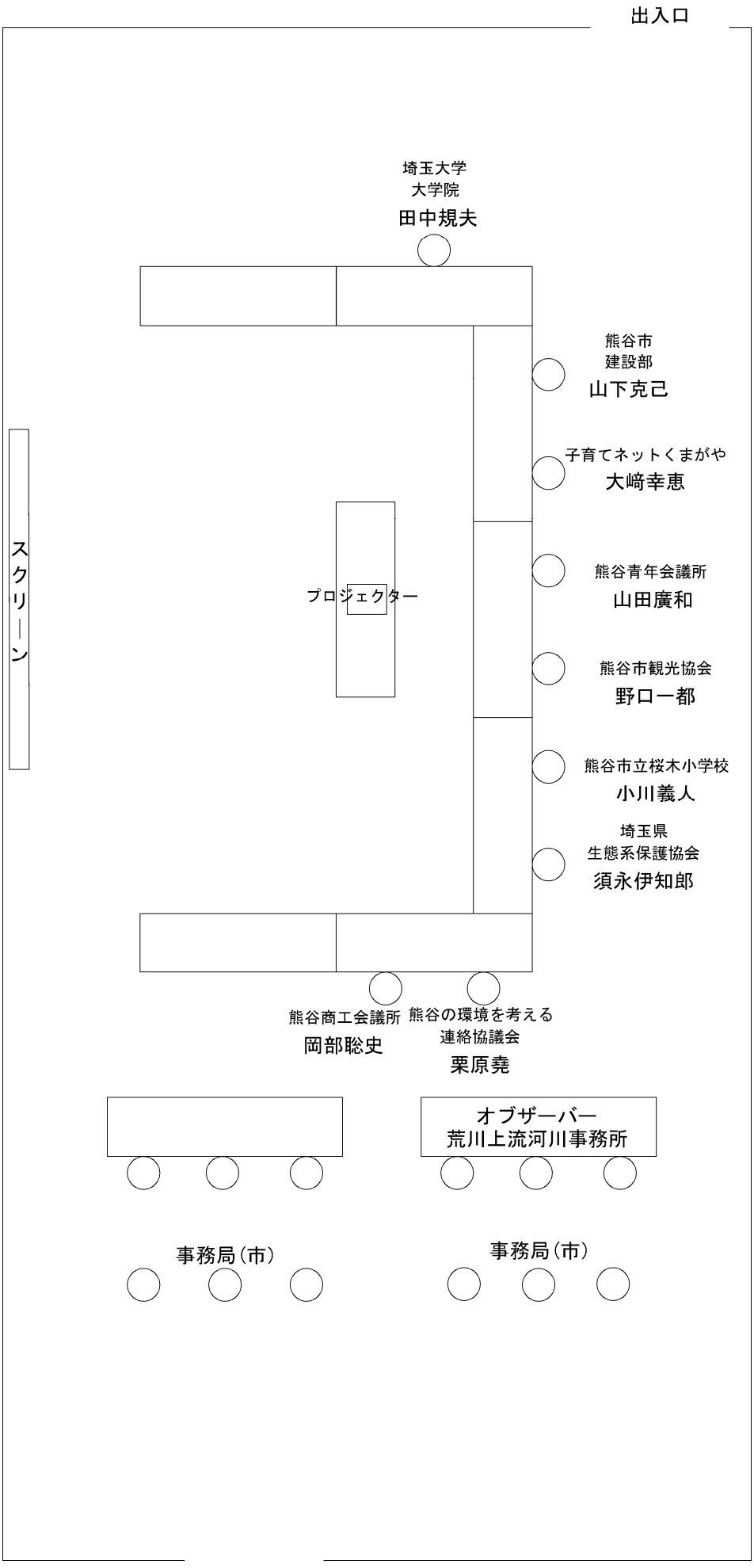
役職名	区　分		氏　名	所属	出席
会長	学識経験者		田中（たなか）　規夫（のりお）	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤専攻 (兼)社会変革研究センター レジリエント社会研究部門	○
委員	地区を代表する者		野口（のぐち）　幸雄（ゆきお）	荒川自治会連合会	―
委員	関係団体を代表する者	商工産業	岡部（おかべ）　聡史（さとし）	熊谷商工会議所	○
委員			山田（やまだ）　廣和（ひろかず）	一般社団法人　熊谷青年会議所	○
委員		スポーツ振興	赤沼（あかぬま）　昇（のぼる）	公益財団法人　熊谷市スポーツ協会	―
委員		観光振興	野口（のぐち）　一都（かずと）	一般社団法人　熊谷市観光協会	○
委員		教育	小川（おがわ）　義人（よしひと）	熊谷市立桜木小学校	○
委員		福祉 子育て	高橋（たかはし）　美香（みか）	熊谷市障害者団体連絡協議会	―
委員			大﨑（おおさき）　幸恵（さちえ）	NPO 法人　子育てネットくまがや	○
委員		環境	須永（すなが）　伊知郎（いちろう）	公益財団法人 埼玉県生態系保護協会	○
委員			栗原（くりはら）　毅（たかし）	NPO 法人 熊谷の環境を考える連絡協議会	○
副会長	市職員		山下（やました）　克己（かつみ）	熊谷市　建設部	○

【事務局】
熊谷市　建設部河川課

【オブザーバー】
荒川上流河川事務所　流域治水課
河川環境課

【コーディネートサポート】
澤田俊明（徳島大学人と地域共創センター・客員教授）

座席表


出入口
埼玉大学
大学院
田中規夫
熊谷市
建設部
山下克己
子育てネットくまがや
大﨑幸恵
スクリーン
プロジェクター
熊谷青年会議所
山田廣和
熊谷市観光協会
野口一都
熊谷市立桜木小学校
小川義人
埼玉県
生態系保護協会
須永伊知郎
熊谷商工会議所
岡部聡史
熊谷の環境を考える
連絡協議会
栗原堯
オブザーバー
荒川上流河川事務所
事務局（市）
事務局（市）

資料１

第 3 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会　議事録

（要点筆記）

●日　　時：令和 6 年 12 月 17 日(火)　13 時 30 分から 15 時 30 分まで

●場　　所：熊谷市立文化センター文化会館　第一練習室

●次　　第：1. はじめに、開会、挨拶、出席者紹介
2. 議事(1)　(1) 第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返り
(2) 第 2 回、第 3 回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催概要
(3) 社会実験の開催概要
3. 議事(2)　(1) 論点 3 ゾーン・主要機能配置（案）
(2) 論点 4 活動の展開（ハード・ソフト施策）（案）
(3) 論点 4 市民・行政協働のかわまちづくり活動（案）
(4) かわまちづくり申請書（案）
(5) その他　質疑・意見交換
4. おわりに、閉会、今後の進め方について

●出席者：（出席委員）田中規夫会長、山下克己副会長、大澤重明委員、赤沼昇委員、野口一都委員
小川義人委員、大﨑幸恵委員、須永伊知郎委員
山田廣和氏（令和 7 年 1 月より大澤重明委員の後任予定者）
（欠席委員）野口幸雄委員、岡部聡史委員、高橋美香委員、栗原堯委員

（事務局）熊谷市　建設部河川課
都市整備部都市計画課、都市整備部公園緑地課
産業振興部商業観光課
総合政策部スポーツタウン推進課
（オブザーバー）荒川上流河川事務所　河川環境課、流域治水課

●資　料：次第
委員名簿/座席表
資料 1　第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会議事要旨
第 2 回、第 3 回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップ開催概要
社会実験の開催概要
資料 2　熊谷市荒川かわまちづくり計画（案）
資料 3　今後の進め方について（スケジュール、次回協議会について）
別紙 1　第 2 回協議会意見反映結果
別紙 2　関係者ヒアリング・協議会・ワークショップ意見反映結果まとめ表
別紙 3　市民・行政協働の活動（案）

1. はじめに、開会、挨拶、出席者紹介	
事務局	・開会の挨拶。 ・熊谷青年会議所の委員が令和 7 年 1 月より大澤委員から山田委員に変更となることを報告した。
2. 議事(1)　(1)第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返り	
事務局	・資料 1 を基に、第 2 回熊谷市荒川かわまちづくり協議会の振り返りについて説明した。
(2)第 2 回、第 3 回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催概要	
事務局	・資料 1 を基に、第 2 回、第 3 回熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催概要について説明した。
(3)社会実験の開催概要	
事務局	・資料 1 を基に、社会実験の開催概要について説明した。
3. 議事(2)　(1)論点 3 ゾーン・主要機能配置（案）	
事務局	・資料 2、別紙 1 を基に、論点 3　ゾーン・主要機能配置（案）について説明した。
委員	・第 2 回協議会での意見「事務局案の自然環境保全ゾーンに加え、スポーツ健康文化交流ゾーン内にも自然環境保全・環境学習ゾーンを一部重ね、自然環境を「創出」する計画としてほしい。追加する場所は、現況坂路の下流の荒川緑地エリア内が良いと考える。」に対し、「別途協議」となるのはなぜか。
事務局	・継続して活動をしていくための体制づくりのため、別途調整を行わせていただきたい。
委員	・「荒川河川敷の保全と利用のあり方」での「荒川緑地」において、グランド等の利活用は 8 割、残り 2 割は自然環境の保全、再生、創出することが示されており、今回のかわまちづくり計画においては、ネイチャーポジティブの視点から、この 2 割の部分は生物多様性の創出または改善していくという位置づけがふさわしいと考え意見を申し上げた。 ・かわまちづくり支援制度実施要綱では令和 6 年度より、ネイチャーポジティブの観点から、かわまちづくり支援制度の中で自然環境の保全・創出に関する取組を支援していくと位置づけられている。高水敷における自然環境創出の取組について、河川管理者の財政的な支援のもと進められるよう、かわまちづくり計画の取組に位置付けることを再検討頂きたい。
事務局	・準備に時間をかけさせていただきたい。
会長	・何もしないということではないと理解できたが、計画書への記載の方法を検討しなくてはいけない。

副会長	・「別途調整」という記載では実施しないように感じ取れるため、「指針に基づき実現に向けて検討する」という記載にしてはどうか。
事務局	・記載方法について検討する。
(2)論点 4 活動の展開(ハード・ソフト施策)(案)	
事務局	・資料 2、別紙 1、別紙 2 を基に、論点 4　活動の展開(ハード・ソフト施策)(案)について説明した。
委員	・社会実験や自然観察会の参加人数が少なかったという課題がある。未就学児を対象とする場合は土日開催だと親子で参加しやすいが、小学生を対象とする場合は土日の集客が難しいのではないか。 ・自然観察会や川の安全教室には、生活圏内に川があり川遊びに慣れている子どもだけではなく、生活圏内が川から遠く、川遊びに慣れていない子どもにも参加頂くと良いのではないか。また、学校の授業の一環としてできればよいのではないか。 ・10/6 に実施されたかわまちづくりの社会実験の遊びの空間づくりの取組について、次年度は子育てネットくまがやが実施している子育て支援イベント（くま SUN フェスタ等）と合同で実施することをぜひ提案したい。かわまちづくり活動と地域活動の双方の取組充実につながる。
事務局	・荒川自然観察会の活動の展開（対象小学校の拡大）は、熊谷市としてもこれから目指していきたい内容である。 ・社会実験は初めての開催であり、宣伝方法と参加人数、運営規模がどの程度になるかわからなかったため、自然観察会は桜木小学校に限定して参加募集を行った。社会実験の開催案内は自治会回覧と熊谷市ホームページへの掲載により周知を行った。 ・市としては（河川空間の利活用を持続的な取り組みとするため）、ご意見頂いたくま SUN フェスタとの連携のように、今後は地域団体や民間の活動に熊谷市が支援する形を目指していきたい。
委員	・小学校の教育課程の中に自然観察会を位置付けられたら良いと考えている。 ・ただ、子どもの参加数が 20 人を超えると運営が難しいと感じた。参加募集の範囲を広げる場合は、回数や日程を分けて開催するなどの工夫が必要になってくる。適当な参加人数は今後検討が必要である。
事務局	・今年度の自然観察会は、保護者が同伴可能な生徒を対象として募集人数を最大 20 人としており、午前午後で開催を分ける予定であったが、当日参加した生徒は 6 人だったため、午後 1 回の開催となった。人数はもう少し多くても運営できるように感じた。
委員	・クラス全員で行った場合は効果的な学習にならないのではないかと感じたため、良い体験・学習にするためには今回参加いただいた 6 人に少し増える程度が良いのではないかと感じた。

会長	・人数規模については今後検討いただきたい。 ・今回は興味のある生徒に参加いただいたが、人数が多くなると目の届く範囲での運営に問題が生じると予想される。
委員	・授業の一貫として取り組む場合は、規模や体制上の問題から、今回の社会実験で実施した内容と学習目的やメニューを変えて実施する必要があると考える。
副会長	・社会実験に参加していただいたキッチンカーの方々から、河川敷という広い空間をぜひ利用したいという声をいただいている。
事務局	・地域からイベント連携の提案があると市として取組やすい。
委員	・親水護岸の一部の踏面を広くして、ベビーカーをたたまずに置きながら休憩出来るバリアフリー的な工夫をしてほしい。
事務局	・今後詳細設計をするにあたり、検討していきたい。
委員	・駐車場の東に位置する運動広場は何か整備をするのか。
事務局	・本計画では荒川大橋から駐車場までが整備エリアであり、運動広場は対象外であるが、芝生の痛み具合や利用形態を考慮し、整備エリアと合わせて整備するか検討する。
委員	・市民の意見を反映しすぎたことで、現状自由に使える場所が狭くなったり予約制になったりなど、出来上がったものが今よりも使いづらくならないよう注意してほしい。
事務局	・自由広場などは通常時は自由に使用できる場所、イベント時はイベント利用ができる設備が整えられるようにしていきたい。
(3)論点 4 市民・行政協働のかわまちづくり活動（案）	
事務局	・資料 2、別紙 3 を基に、論点 4　市民・行政協働のかわまちづくり活動（案）について説明した。ワークショップ意見を踏まえて選定した 2 案を優先的に検討し、他の活動については、市民からの要望があった場合適宜実施をする。
委員	・協議会委員以外で市民活動をしている団体を集めた意見交換会などは計画しているか。
事務局	・現時点では予定していないが、必要に応じて実施に向けて検討していく。
会長	・色々な視点から意見をいただくため、ニーズがあれば意見交換会などの開催を検討いただきたい。
(4)かわまちづくり申請書（案）	
事務局	・資料 2 を基に、かわまちづくり申請書（案）について説明した。

委員	・ワンド部の護岸について、令和元年台風を受け、荒川上流河川事務所では流心が市街地側に寄らないよう流路の改変を行ったと記憶している。治水の安全を確保した上で多自然護岸（生きものの生育環境充実）とすることは可能なのか。
会長	・隠し護岸をイメージしていると思うが事務局の考えはどうか。
事務局	・荒川自然観察会で環境が良い場所であることを確認し、より生きものが生息しやすい場所になると良いと考えている。ご指摘いただい経緯を踏まえ、荒川上流河川事務所と協議をしていきたい。
会長	・高水敷も広くなく、護岸がなくなることで危険性も懸念されるため、十分協議いただきたい。
委員	・荒川大橋の橋脚工事に伴って瀬替えを行うと聞いている。ワンドや治水上の扱いが変わってくるのではないか。 ・荒川緑地内で利用 8 割、自然 2 割を検討するのがよいのではないか。
4. おわりに、閉会、今後の進め方について	
事務局	・資料 3 を基に、今後の進め方について説明した。
オブザーバー	・閉会の挨拶。
事務局	・閉会の挨拶。 以上

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

熊谷市荒川かわまちづくり
計画書（案）



熊谷市

令和7年3月26日時点版

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

目　次

1. 市町村及び河川の概要 1
1-1 市町村等の概要 1
1-2 河川の概要 1
1-3 かわまちづくりの方針 11
1-4 推進体制・取組内容 16
1-5 安全な河川利用に向けた取組 20
1-6 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組 20
1-7 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組 20
2. ソフト施策の個別施策計画書 21
2-1 河川名 21
2-2 提案事業の実施範囲 21
2-3 提案事業の概要 21
3. ハード施策の個別整備計画書 27
3-1 河川名 27
3-2 整備範囲 27
3-3 整備内容 27
3-4 整備の実現方策 32
3-5 多自然川づくりに関する事項 37
3-6 その他特筆すべき事項 37
4. 維持管理計画書 38
4-1 持続的な有効利用に関する計画 38
4-2 維持管理計画 38

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

＜様式2＞

1.市町村及び河川の概要

1-1.市町村等の概要

①	都道府県名	埼玉 県	
②	市町村名	熊谷 市	
③	人口	191244 人	（令和6年10月1日時点）
④	面積	160 km^2	

1-2.河川の概要

① 荒川の河川概要

荒川はその源を埼玉県秩父山地の甲武信ヶ岳（標高2,475m）に発し、荒川流域図（図2）の流路をたどり東京湾に注ぐ、幹線流路延長173km、流域面積2,940km²の一級河川です。

その流域は東京都と埼玉県にまたがり、流域内の人口は日本の人口の約8%にあたる約1,020万人で、その多くは、沖積低地、台地、丘陵に集中しています。特に東京都内の沿川の人口密度が約14,500人/km²と全国一級水系中で極めて高いものとなっています。流域の土地利用は山林地等面積約44%、市街地約34%、畑約8%、田約6%、河川湖沼約4%等となっています。

本計画区域は荒川の中流域に位置し、対象地区一帯は荒川扇状地の扇端に位置します。勾配は1/400程度で流れが早く、広い川幅と高水敷が特徴で、高水敷は公園やグラウンドなどに利用されています。また、荒川大橋の上流側には熊谷水位観測所が設置されています。

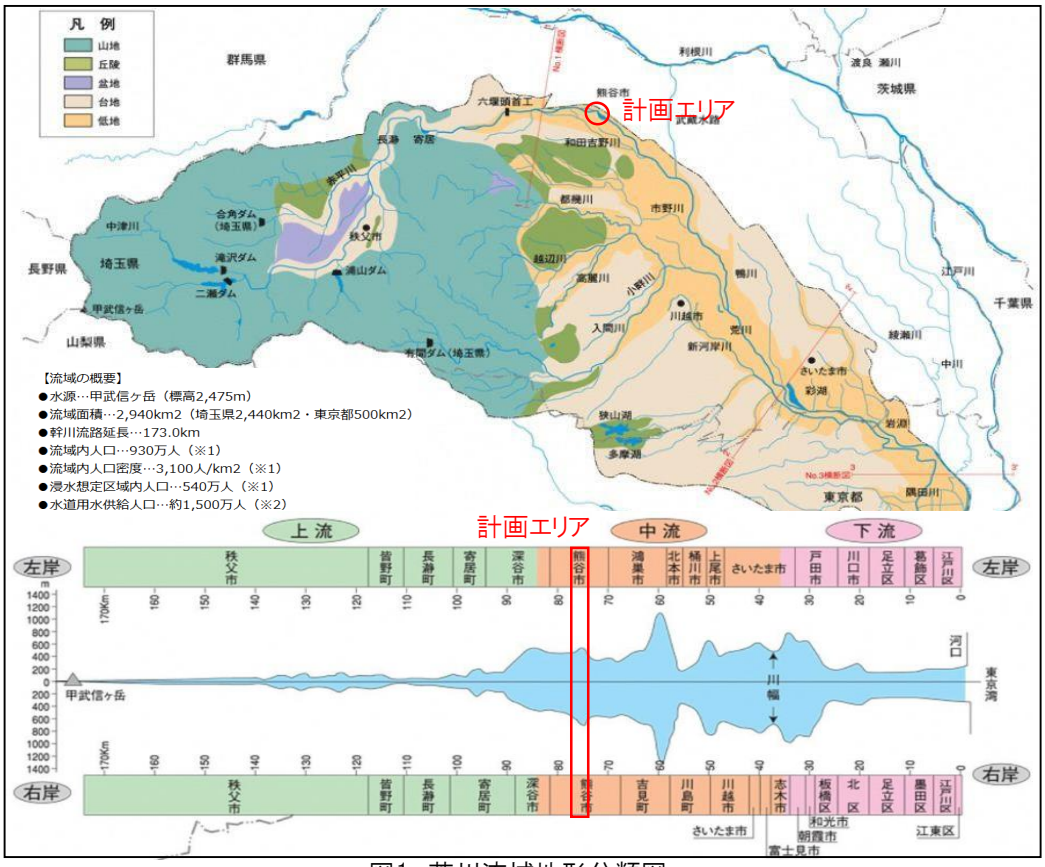


図1　荒川流域地形分類図

出典：国土交通省　荒川上流河川事務所HP

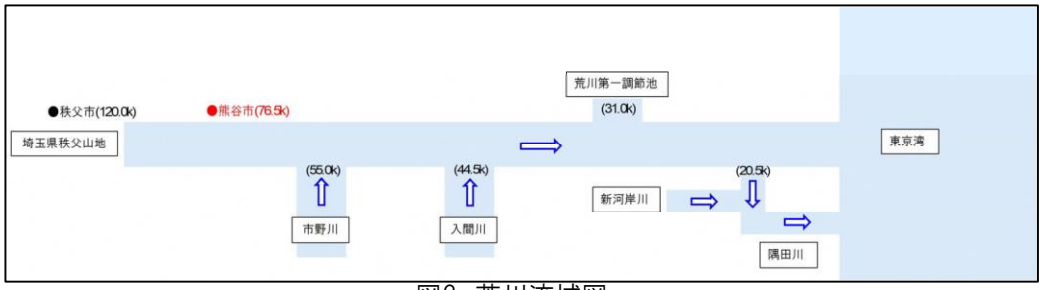


図2　荒川流域図

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

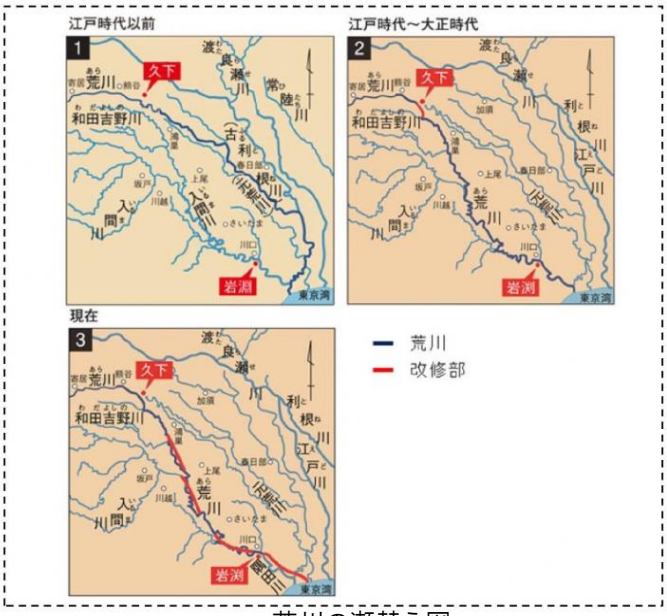
② 熊谷市荒川に関わる文化･歴史

熊谷市荒川の歴史･文化について、下記に示します。

荒川の瀬替え

江戸時代より前は東京湾に流れていた利根川の支川として、現在の元荒川筋を流れていましたが、寛永６年（1629年）に荒川は熊谷市久下付近で締め切り、和田吉野川に付け替えられ、入間川筋を本流とする流れに変更されました。

右の地図は、荒川の流路の変遷をたどったものです。１が江戸時代の瀬替え以前。２が瀬替えから、荒川放水路完成まで。３が現在の荒川を示しています。



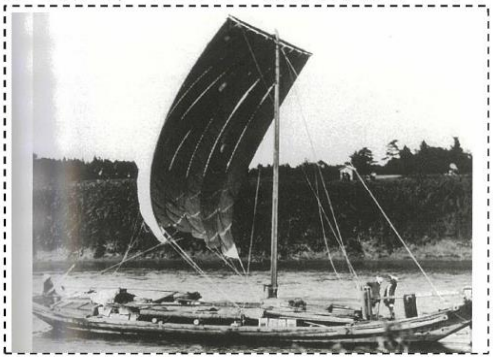
荒川の瀬替え図

出典：国土交通省　荒川上流河川事務所HP

荒川の舟運

後世「荒川の西遷(せいせん)」と呼ばれるこの河川改修事業は、埼玉平野の東部を洪水から守り新田開発を促進すること、熊谷・行田などの古い水田地帯を守ること、木材を運ぶ舟運の開発などを目的にしていたと言われています。

これにより荒川の舟運は、年貢米や特産物など物資の大量輸送を担う重要な交通路となり、大都市江戸の繁栄を支えるとともに、荒川を通じた物資・交流のまち「熊谷」を育んできました。

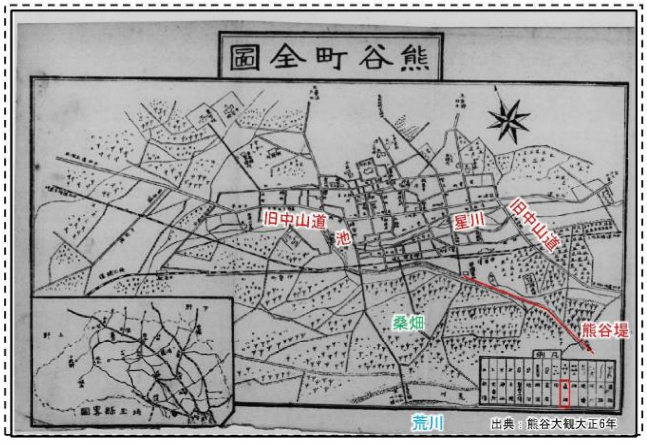


荒川を航行する高瀬船

出典：澪　荒川上流改修80年の歩み

熊谷堤

16 世紀後半、現在の熊谷堤の北に地域を横断して「北条堤」と呼ばれた旧熊谷堤が荒川の洪水から町を守るために作られ、春には桜の名所として戦後まで存在しており、旧堤外地は戦前までは一面に桑畑が広がっていました。戦後の区画整理により桑畑は減少し、桜堤は崩され、松岩寺（しょうがんじ）から石上寺（せきじょうじ）、上熊谷駅、万平公園（まんぺいこうえん）から久下（くげ）まで続いた桜堤は幻になり、現在、石上寺と万平公園にその断面を残すのみとなっています。



熊谷堤位置図

出典：熊谷大観大正6年

図3　熊谷市荒川の歴史･文化（1/2）

熊谷さくら祭り

堤防の法面には約 500 本のソメイヨシノが植樹されており、約 2km の長い桜のトンネルをつくります。桜は“熊谷桜堤”として市民に愛されており、毎年、3 月下旬から 4 月上旬に熊谷さくら祭りが開催されています。また、公益財団法人日本さくらの会から由緒ある歴史と美しさが称えられ、平成 2 年 3 月に「日本さくら名所 100 選」に選定されました。計画地内にその記念石碑が建てられさくら祭のメイン会場となっています。



熊谷さくら祭り
出典：熊谷市HP



さくらの名所100選の記念石碑

熊谷花火大会

熊谷市の花火大会は昭和 23 年に第一回を開催して以来、70 回以上が開催されており、県内でも歴史ある花火大会の一つで例年 45 万人あまりの見物客でにぎわっています。

計画地は花火大会会場の一部となっており、普段ラグビー場等として利用されている河川敷や堤防の法面は花火の観覧席に利用されています。





熊谷花火大会（左：第71回ポスター、右：R5年花火大会の河川の様子）

荒川の恵みと熊谷の暮らしの関わり

荒川はその恵みによって、暮らしに関わり、熊谷らしさ（文化）を育んできました。

荒川の水は、熊谷市を含む県北の広大な農地を潤す用水の水源として重要な役割を担い、米と麦の二毛作を支えています。

また、市は荒川扇状地の扇端地に位置し、豊富な湧水に恵まれ、そのきれいで美味しい湧水は、酒造業や県指定伝統手工芸品「熊谷染め」の伝統・文化を育んできました。



熊谷らしさを育んできた荒川

現在も、荒川の水は熊谷の食文化を支え、熊谷産小麦でつくる「熊谷うどん」や、熊谷の美味しい水でつくるかき氷「雪くま」は、まちの新たな文化として定着しています。

図4　熊谷市荒川の歴史・文化（2/2）

③　熊谷市荒川の自然環境

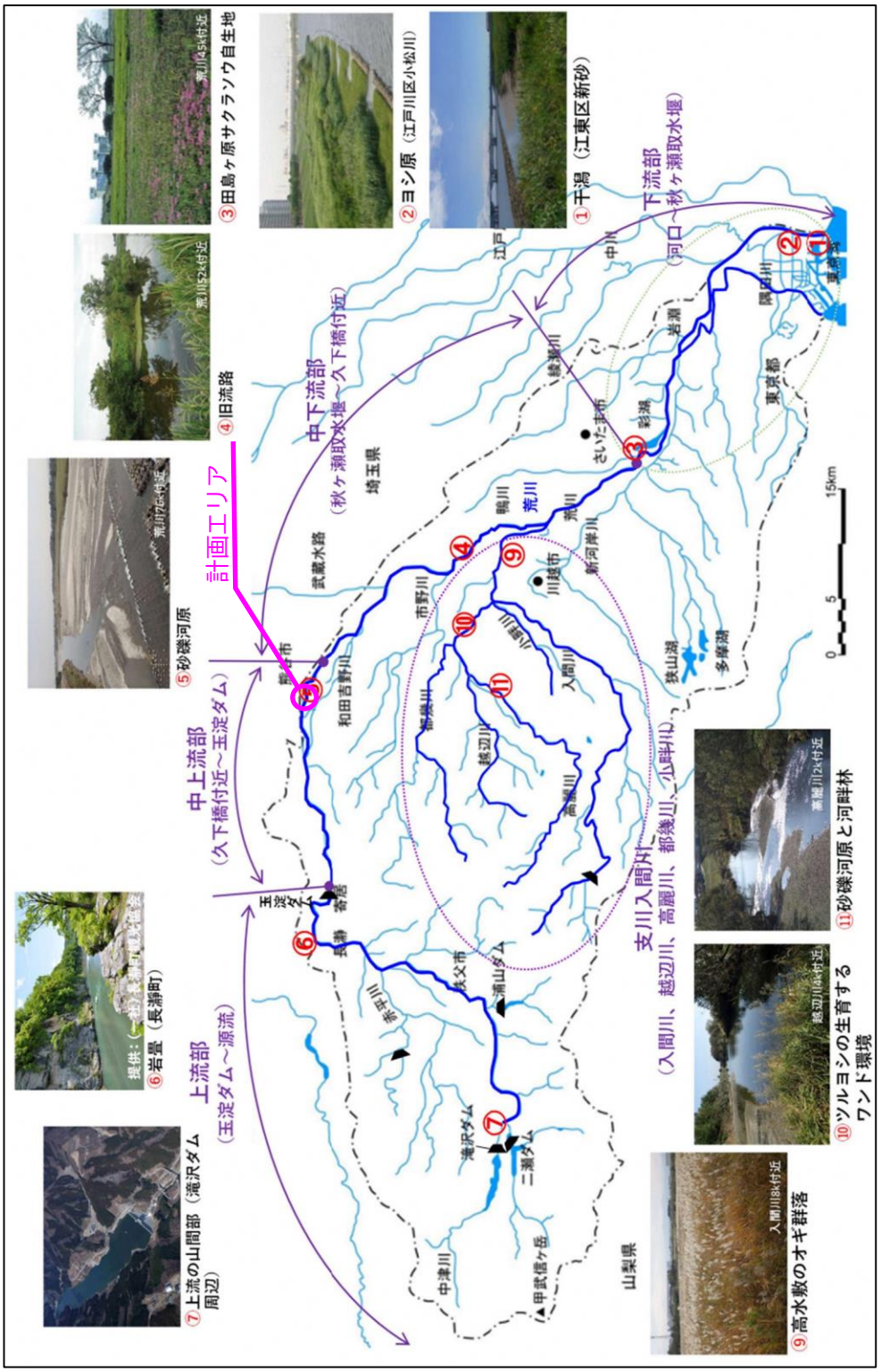
荒川は秩父山地の甲武信ヶ岳を源とし東京湾まで流れる河川です。
計画地は荒川の扇状地（扇端部）に位置し、豊富な水と肥沃な大地により、自然環境が形成されています（図6）。

上流から下流までの様々な河川環境に応じた生物が生息･生育しており、計画地には、中上流部の砂礫河原特有の生物が生息･生育しています（図5）。

荒川の連続する広大な河川空間は、こうした上下流の多様な自然を繋ぐ回廊としての役割を担っています。

荒川の中上流部（計画地）は、水域には交互に瀬と淵が分布し、砂礫河原が多く見られ、コアジサシ、イカルチドリ等の鳥類が営巣しています（図7、8、9）。

計画地の上流には、県内でも有数の野鳥の渡来地となっている「野鳥の森」があります（図10）。



出典：荒川水系河川整備基本方針 R7.1

図5　荒川水系の代表的な自然環境

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

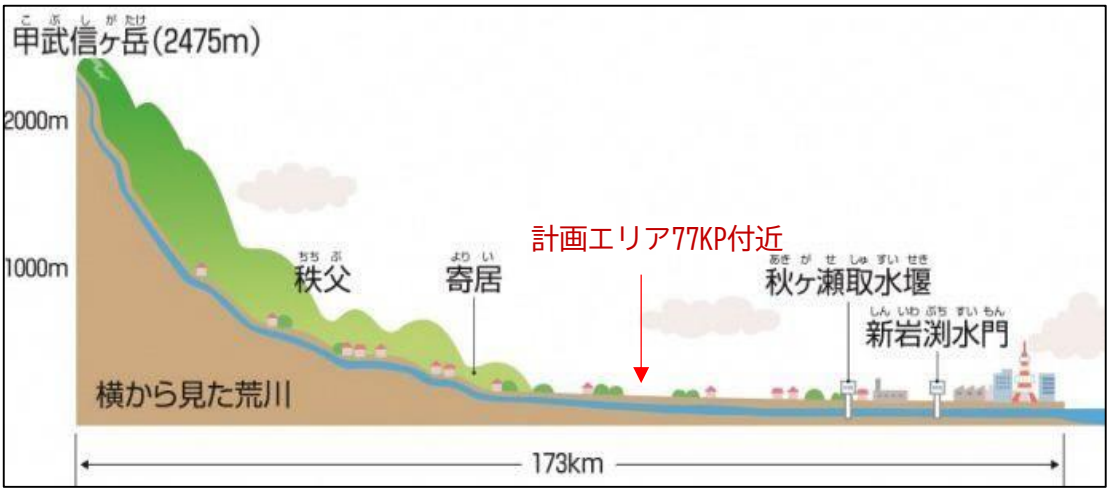


図6　横から見た荒川

出典:荒川読本 H29.8



コアジサシ
【分　　布】本州以南に夏鳥として渡来し、繁殖。
【生息場所】大きな川の中州や河岸、湖岸、海岸の砂礫地や埋立地に生息し、コロニーをつくる。
【産卵時期】4～7月
【出典：水と緑のネットワーク荒川】



イカルチドリ
【分　　布】本州、四国、九州に繁殖。冬はほぼ日本全土。
【生育場所】河原や埋立地、荒地の砂礫地に生息。特に河川中流域の氾濫原で礫の多い所を好む。
【出典：水と緑のネットワーク荒川】

図7　荒川中上流部における主な確認種



図8　砂れき河原の浅瀬の自然環境
（荒川大橋上流）



図9　淵の自然環境（荒川大橋上流）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

荒川大麻生公園「野鳥の森」「野草の広場」

荒川中流左岸の河川敷、熊谷市にある県営公園であり、公園全域で約 170ha、その約半分は県内でも有数の野鳥の渡来地となっている「野鳥の森」や河原特有の草花が咲き誇る「野草の広場」が広がっています。「野鳥の森」では年間を通じて 100 種類以上の野鳥を観察すること可能です。また、「野草の広場」では春から秋にかけて河原特有の希少な植物を観察することができ、荒川流域で最も豊かな自然のある公園となっています。



位置図

出典:NTT空間情報

野鳥の森

スギ・クヌギなどの針葉樹や落葉樹に混じり、アラカシなどの照葉樹が生育していて、暑い熊谷の夏でも涼しい木陰を提供しています。野鳥は、冬にアカゲラ・アカハラ、春と秋の渡りの時期にはキビタキ・オオルリなど森林性の野鳥が見られます。



アカゲラ

出典:国土交通省 北海道開発局HP



キビタキ

出典:国土交通省 北海道開発局HP

野草の広場

公園内の荒川に近い草地で、カワラナデシコ・カワラヨモギなど、減少の著しい河原特有の希少な植物のお花畑となっています。特にピンクの可憐な花をつけるカワラナデシコについては、県内の平野部では最大の自生地となっています。



カワラナデシコ

出典:国土交通省　荒川上流河川事務所HP



カワラヨモギ

出典:国土交通省　荒川上流河川事務所HP

図10　熊谷市荒川の自然環境

④　熊谷市及び周辺地域の河川利活用状況、観光資源及び魅力の整理

現状の河川の利用状況および地域の魅力を下表1に示します。

一般利用者の多くは、堤防道路の散歩やジョギング、熊谷桜祭りや熊谷花火大会等のイベント利用を目的として訪れています（市民アンケート調査結果2023年11月実施より）。

堤防道路では、春には桜堤の桜と菜の花が一体となって、地域の人々の心に残る美しい風景を創り出しています。見通しの良い冬には、荒川の自然と秩父連山の山並みの眺望が魅力となっています。

近年の健康志向の高まりを背景に、この景観・眺望の良い堤防道路は、散策やジョギング、サイクリング等に利用されています。

また高水敷では、広大な空間を活かしたスポーツ施設が充実しており、学校の部活動や地域のスポーツクラブ・シニアクラブ等の日常的な練習や試合会場に利用されています。

堤防道路や高水敷の河川空間は、周辺の地域住民及び熊谷市民の健康の維持に、心身両面において重要な役割を果たしています。

表1　市民や民間事業者による河川利活用状況及び地域の魅力の抽出

河川利活用状況		
熊谷市	地域の活動・イベント	・観光イベント：熊谷さくら祭り（3月下旬～4 月上旬）、熊谷花火大会（8 月）（主催：熊谷市観光協会） ・スポーツ：熊谷さくらマラソン大会（3 月）（主催：熊谷市・熊谷市教育委員会・熊谷市スポーツ協会・熊谷さくらマラソン大会実行委員会） ・かわの清掃活動：荒川の恵みと熊谷を考える集い（11 月）（主催等：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会）、荒川桜堤の清掃（実施団体：桜ファンクラブ） ・消防救急活動：ドクターヘリポート ・防災訓練：水防訓練（熊谷市消防局）（実施団体：熊谷市消防局、熊谷市水防団、行田市水防団、鴻巣市防団、荒川南縁水防団）
	日常利用	・スポーツ利用（利用者：スポーツ協会、地域のクラブチーム、近隣学校の部活動・試合（ラグビー、ソフトボール、サッカー、ラクロス、グランドゴルフ等）場所：ラグビー場、自由広場等） ・休憩、散歩、ジョギング利用（利用者：地域住民等、場所：堤防道路）
	学習利用	・自然学習利用（近隣小学校）
地域の魅力		
熊谷市	交通利便性	・新幹線が利用でき、東京駅まで 39 分、また、東北道や関越道等の IC まで 30 分以内と、交通アクセスが良く、ショッピング施設も充実している便利な街である。
	観光資源（歴史・文化）	・旧熊谷堤、星渓園、武井本陣跡の碑、星川、熊谷桜堤（さくらの名所 100 選）、万平公園、旧中山道、みかりや跡、岐阻道中熊谷宿八丁堤景、久下の渡し・冠水橋の碑、久下橋（関東富士見百景）
	食	・地下水が豊富で水道水のおいしさが有名 ・加えてそのおいしい水を使ったかき氷「雪くま」は、市内外の来訪客の魅力の一つになっている。 ・郷土食（熊谷うどん、すいとん）、雪くま（暑さ対策）
	地域の魅力・自然環境・景観	・利根川や荒川などの水辺に囲まれた自然豊かな環境を有している。 ・荒川の水辺と緑、オープンスペース、花の名所（熊谷桜堤） ・眺望（山並み、水辺）が良いこと
	観光施設	・スポーツ・文化・健康拠点・観光交流拠点：熊谷スポーツ文化公園（ラグビー場・陸上競技場）、熊谷市スポーツ文化村「くまピア」、熊谷さくら運動公園、武蔵丘陵森林公園、上記を周遊するスポーツ・文化・健康の連携軸（自転車道等）、妻沼聖天山、星溪園、仮称）北部地域振興交流拠点 ・自然資源：荒川大麻生公園「野鳥の森」「野草の広場」
	地域の活動・イベント	・観光・商業振興：熊谷さくら祭り（3月）、熊谷花火大会（8 月）、うちわ祭り（7 月伝統行事）、えびす大商業祭り（11 月）地域イベント（星川夜市（月1回））（主催：熊谷市観光協会） ・スポーツ：熊谷さくらマラソン大会（3 月）（主催：熊谷市・熊谷市教育委員会・熊谷市スポーツ協会・熊谷さくらマラソン大会実行委員会） ・子育て支援・福祉：くま SUN フェスタ（11 月子育て支援イベント） ・歴史・文化・戦災伝承：熊谷初市・星川だるま市（1 月熊谷宿）、星川とうろう流し（8 月戦災伝承）
	スポーツ	・ラグビーワールドカップ 2019 開催都市として「ラグビータウン熊谷」を世界に発信し、大会後も、熊谷ラグビー場では、日本代表戦やトップリーグの試合が数多く予定されており、スポーツを実践・観戦しやすい環境が整っている。 ・ラグビー、スカイスポーツ、サイクリング（荒川）
周辺地域	広域連携・周遊	・埼玉県北部地域地方創生推進協議会 ・荒川を軸とする上下流の広域連携（サイクリングロード、水上スポーツ） ・利根川自転車道との連携 ・星川かわまちづくり ・秩父鉄道 ・中山道を軸とする連携（深谷宿） ・隣接市、県との広域連携（群馬県、東京都、県内他市）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

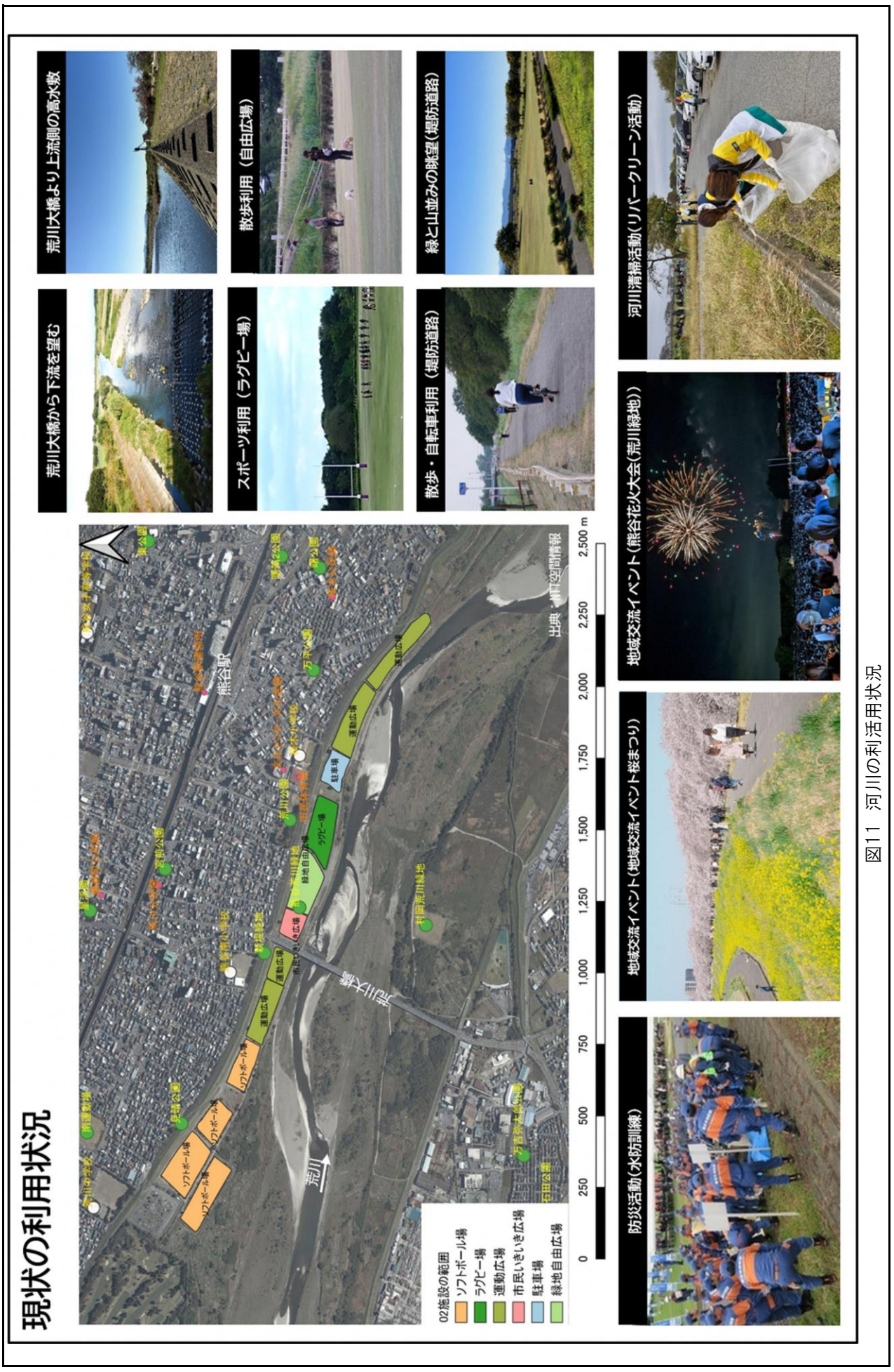


図11　河川の利活用状況

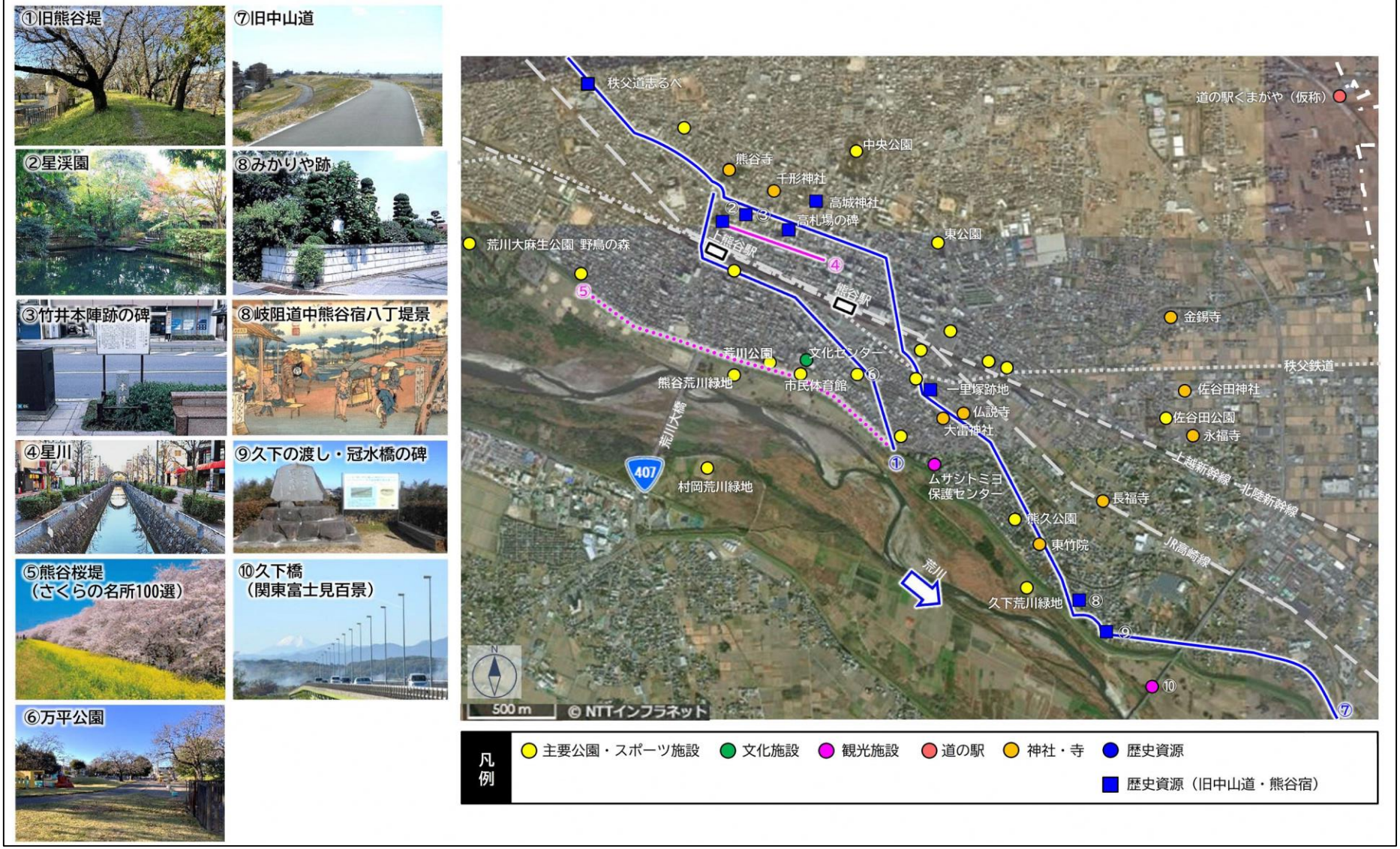


図12　観光資源(歴史･文化)

出典:②④⑤熊谷観光ガイドマップ　③⑧中山道マップ
⑦⑨荒川上流河川事務所HP　⑩熊谷市HP

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

①熊谷さくら祭
時期：4 月
場所：荒川堤(中心市街地区域周辺)
概要：日本さくら名所百選に選ばれた熊谷の桜は、「名勝 熊谷桜堤」として、人々に親しまれており、開花時期には、近隣から 14 万人もの人々が集う春の一大イベントとなる。
さくら祭開催時期には、多くの見物客が中心市街地に訪れ、中心市街地も活気にあふれている。



②熊谷うちわ祭・熊谷えびす大商業祭
時期：7 月
場所：中心市街地内
概要：延べ 75 万人の集客を誇るのが、7 月 20 日から 3 日間行われる八坂神社例大祭のうちわ祭。12 台の山車・屋台が熊谷囃子とともに市街地を巡行する様子は、その絢爛豪華さから関東一の祇園祭と称されている。
クライマックスである 3 日目の夜には、あちらこちらの街角で引き合わせ叩き合いが繰り広げられながら、山車と屋台がお祭広場に集結する。ライトアップされた山車・屋台、数万人の人の波、夜空に響きわたるお囃子と歓声が、訪れた人の誰をも熱く燃えさせる。



時期：11月
場所：中心市街地内
概要：商店主が中心となり、商売繁盛を願ってえびす大黒の木像を先頭にした稚児行列や民謡流しなどが行われ、約 20 万人の人出がある。



③熊谷花火大会
時期：8　月
場所：荒川河畔(中心市街地区域周辺)
概要：毎年 8 月の第 2 土曜日に、10,000 発ものスターマイン等の花火を打ち上げる。約40万人が訪れ、関東一の花火大会との定評がある。
花火大会当日には、多くの見物客が中心市街地に訪れ、中心市街地も活気にあふれている。





④とうろう流し・⑤星川夜市
時期：8 月
場所：星川
概要：昭和 20 年 8 月 14 日深夜、熊谷に米軍による太平洋戦争最後の空襲が行われ、市街地の 3 分の 2 が焼き尽くされ、266 名が亡くなり、特に星川付近の被害は甚大で、悲惨の極みであった。戦後の昭和 25年より、犠牲になった人々の霊を慰めるために、とうろう流しが始まった。毎年約 5 千人の人出がある。



⑥星川だるま市
時期：2 月
場所：星川通り
概要：毎年 2 月 7 日に星川の流れを背にして、だるま店が並ぶ。起源は江戸時代に熊谷宿の繁栄を願って始められたといわれており、毎年約 5 千人の人出がある。市内では星川のほか、三ヶ尻龍泉寺、東漸寺、聖天山、玉井神社などでも開かれている。





⑦熊谷さくらマラソン大会
時期：3 月
場所：荒川堤(中心市街地区域周辺)
概要：熊谷さくらマラソン大会は、毎年3月下旬の日曜日に開催します。コースは熊谷さくら運動公園を発着とした市内特設コースを使用し、桜の開花と重なれば花見ランも楽しむことができます。
全国から1万人近いランナーが集う本大会は、各部門1位から10位までの表彰（親子マラソンは除く）のほか、特別賞やお楽しみ抽選会、とん汁・コーンスープのサービスなどもご用意しております。

出典：『第2次熊谷市総合振興計画　後期』　熊谷市、『熊谷市中心市街地活性化基本計画（案）』熊谷市、『熊谷市中心市街地活性化基本計画（案）』熊谷市、熊谷市HP

図13　河川の利活用状況及び周辺の観光資源(イベント)

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

1-3.かわまちづくりの方針

① 地域における課題、必要性

・課題1：熊谷らしさ（水辺やまちの魅力・歴史文化）の情報発信、まちへの愛着の醸成

市民にさらに愛着を持ってもらうため、地域資源を活かす水辺の魅力（安らぎ・涼）、観光資源（スポーツ文化、桜堤、熊谷さくら祭り、熊谷花火大会や自然環境（荒川の自然、野鳥の森等）及び歴史文化（西遷、旧熊谷堤、舟運・渡しや中山道）等の魅力を発信していくことが必要です。

・課題2：都市拠点の魅力・活力の充実による定住促進、多様な世代の交流人口・関係人口拡大

熊谷駅南口周辺は、駐車場等の低未利用地が多く点在。少子高齢化・人口減少社会に対応し、人口減少の更なる深刻化の抑制に向け、都市拠点としての必要な魅力（活力・教育・文化）、利便性（ユニバーサルデザイン）を備え、健康に暮らせるまちの環境整備の充実が必要です。

周辺のまちづくり計画と連携を図ることが必要。熊谷駅南口や中心市街地では、小規模な低未利用地や空き家が目立つようになっており、魅力や賑わいの向上を図る取組が求められています。

・課題3：荒川の豊かな自然環境の保全と継承

地球温暖化対策（「ゼロカーボンシティくまがや」の宣言への対応、暑さ対策）、荒川の自然環境の保全・創出・継承、自然環境保全の担い手確保、子どもたちが安全に荒川の自然環境と触れ合える空間の充実が必要です。

・課題4：かわ・まち・駅空間の一体的な安全・安心まちづくり（ハード・ソフト）

浸水リスク（浸水深0.85m 家屋倒壊等氾濫区域（想定最大規模））への対応。

気候変動の深刻化、高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化に対応し、想定を超える災害への備えの充実、流域治水の取組推進、自助や共助の意識向上が必要です。

② 市町村の地域計画や沿線地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

・熊谷市都市計画マスタープラン（R4.3策定）

計画地周辺は、自然の中でスポーツや文化に親しみ愛着の持てるまちを実現する都市構造として、荒川公園周辺再整備事業と一体で新スポーツ・文化・健康拠点に位置づけられています。荒川高水敷、荒川、堤防道路はそれぞれ荒川高水敷：公園・緑地ゾーン、荒川：水辺の軸、堤防道路：スポーツ・文化・健康の連携軸に位置づけられています。

また、荒川緑地は安心して暮らせる安全なまちを実現する都市構造において、広域避難場所に位置づけられています（地震による大きな火災が発生した場合などの大規模な避難に適した緑地）。

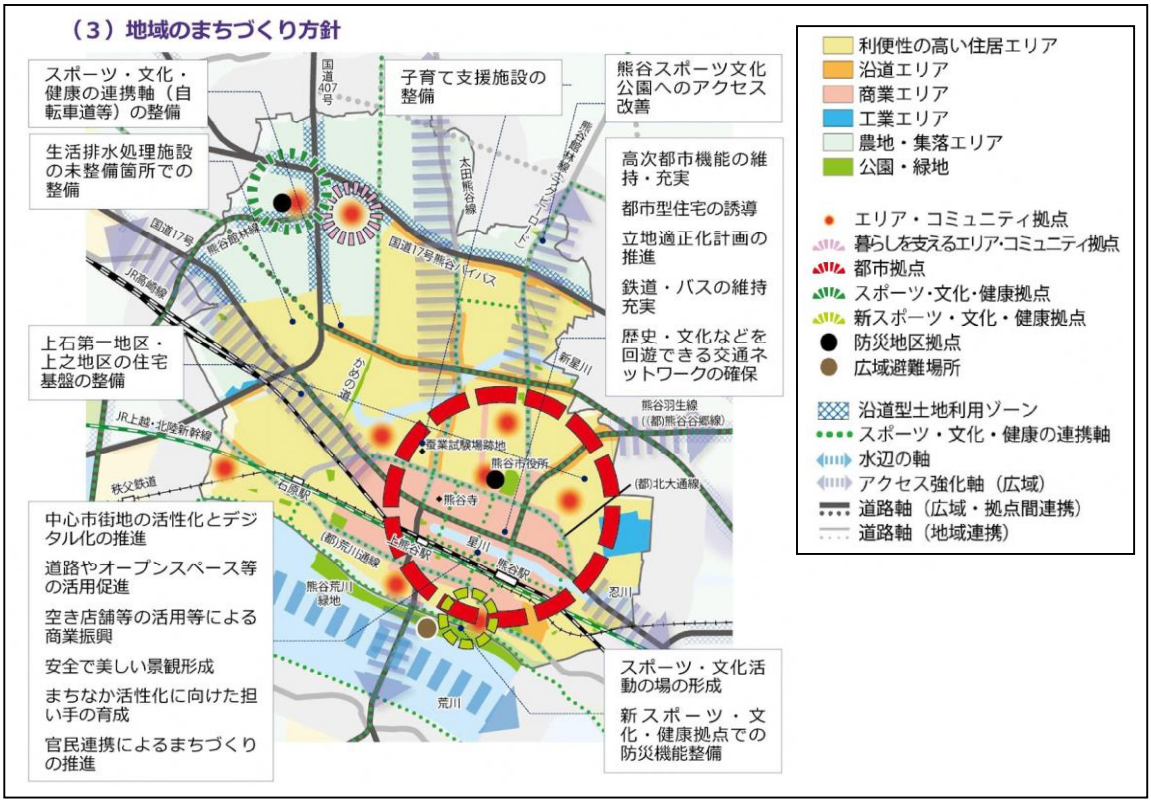


図14 熊谷市都市計画マスタープラン（1/2）

出典：熊谷市都市計画マスタープラン R4.3

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り



図15　熊谷市都市計画マスタープラン(2/2)
出典：熊谷市都市計画マスタープラン R4.3

③　地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

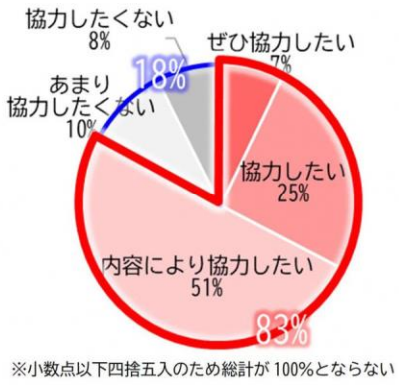
居住地や世代が異なるなど、多様な主体の地域ニーズの把握のため、市民アンケート調査、自治会アンケート調査を実施しました。また、社会実験開催時にもアンケート調査を実施しました。アンケート結果より、本かわまちづくり計画への参加意欲を示した円グラフを以下に示します。

市の現状、課題、地域意見を踏まえ設定した本計画の基本方針･ゾーン設定と各ゾーンの主要機能を次頁に示します。

表2　アンケート調査一覧

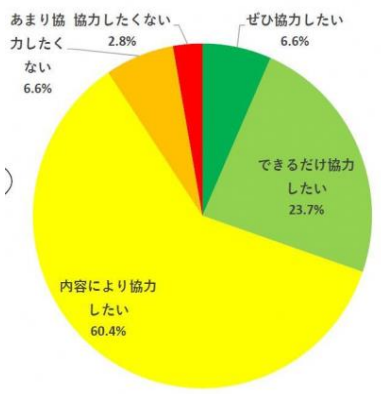
調査名	対象	調査方法	実施日	回答数	調査項目
市民アンケート	熊谷市内の在住者	Webモニターアンケート	令和5年11月20日～令和5年11月30日	400件	･対象エリアの利用状況 ･かわまちづくりへの期待 ･問題箇所等に関する自由意見等
自治会アンケート	対象エリアに隣接した自治会（河原町、桜木、万平町一丁目、万平町二丁目第1～第3自治会）827世帯	回覧	令和6年1月～令和6年2月	413件（回収率49.9%）	･対象エリアの利用状況 ･かわまちづくりへの期待 ･問題箇所等に関する自由意見
社会実験アンケート	社会実験参加者のうち中学生以上	アンケート用紙	令和6年10月6日	39件	･社会実験の感想 ･かわまちづくり計画へのご意見
	社会実験参加者のうち小学生以下	意見カードへの記入		18件程度※	･みずべ利用チャレンジアンケート（楽しかったコーナーとその感想） ･かわまちづくりへのみんなの意見
	荒川自然観察会のうち小学生	アンケート用紙	令和6年10月26日	6件	･自然観察会の感想 ･かわまちづくり計画へのご意見
	荒川自然観察会のうち保護者･見学者	アンケート用紙		8件	･自然観察会の感想 ･かわまちづくり計画へのご意見

※複数回答可であったため想定される人数を記載

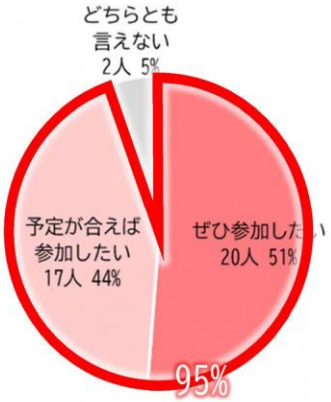


※小数点以下四捨五入のため総計が100%とならない

かわまちづくり計画への参加意向
（市民アンケート調査結果）



かわまちづくり計画への参加意向
（自治会アンケート調査結果）



社会実験への参加意向
（社会実験アンケート調査結果）

図16　アンケート結果

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

④ 基本方針・ゾーン設定と各ゾーンの主要機能

本計画における「基本方針」「整備方針」「ゾーン設定と各ゾーンの主要機能」を下記に示します。

基本方針	整備方針
基本方針１ **地域と共創** 地域との共創により、地域の魅力、愛着と誇りを育むかわまちづくりを目指します。	**整備方針1-1　熊谷らしさ、つながり** ・熊谷らしさ（水辺やまちの魅力、観光資源、自然環境、歴史文化）を活かし、地域の魅力を充実する空間づくりを目指します。 ・子どもから大人まで多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間の創出を目指します。
	整備方針1-2　地域振興・健康づくり ・荒川の自然の中で、誰もが自由にスポーツ（する・みる・ささえる）や健康づくりを楽しむ空間の創出を目指します。 ・周辺まちづくり計画との連携やまちとのつながりを重視します。
	整備方針1-3　自然環境・風景 ・荒川と山並みによって創り出す美しい風景を守るとともに、生物多様性の保全や温室効果ガスの吸収等に寄与する都市空間における貴重な緑地・水辺空間である荒川の豊かな自然環境を保全・創出・継承します。 ・未来を担う子供たちが荒川の自然環境と触れ合える空間を充実し、自然環境を守り育てる担い手づくりを目指します。
基本方針２ **安全・安心** 地域の安全・安心に寄与します。	**整備方針2-1　安全・安心** ・堤防整備（嵩上げ・拡幅・側帯盛土）により、洪水時の災害リスクを減らし地域の防災力を高めます。
	整備方針2-2　水害・災害学習 ・過去の水害の歴史、災害リスクを学習し、災害を自分事化し、地域の防災・減災対策を地域と行政が一体となって考え、取り組むことを目指します。

ゾーン設定と各ゾーンの主要機能

■スポーツ健康文化交流ゾーン
・荒川の自然や水辺の涼を身近に感じながら、誰もが自由にスポーツ（する・みる・ささえる）や健康づくりを楽しむ機能を充実します。
・地域交流や防災イベント等の多様なイベント開催を支援する機能を充実します。

■水辺の憩いゾーン
・水辺を眺め、安らぎや涼を感じられる水辺の憩いの機能を充実します。
・安全性や環境配慮に留意したアウトドアや健康づくりイベントなどを楽しむ親水機能を充実します。

■自然環境保全・環境学習ゾーン
・荒川の豊かな自然環境・風景を守り、生物多様性を高める機能（多自然川づくり・在来野草による自然環境）を充実します。
・水辺の楽校など、子供たち等の地域の人が荒川を環境学習の場として活用する機能（安全な浅瀬・アクセス等）を充実します。

■歴史文化体験ゾーン
・荒川とまちに関わる歴史文化の魅力の情報発信や往時に想いを馳せる空間・体験機会等を充実します。
（荒川の治水遺産（荒川西遷、旧熊谷堤）、舟運と中山道の歴史、浮世絵に描かれている中山道中の御狩屋の賑わい等）

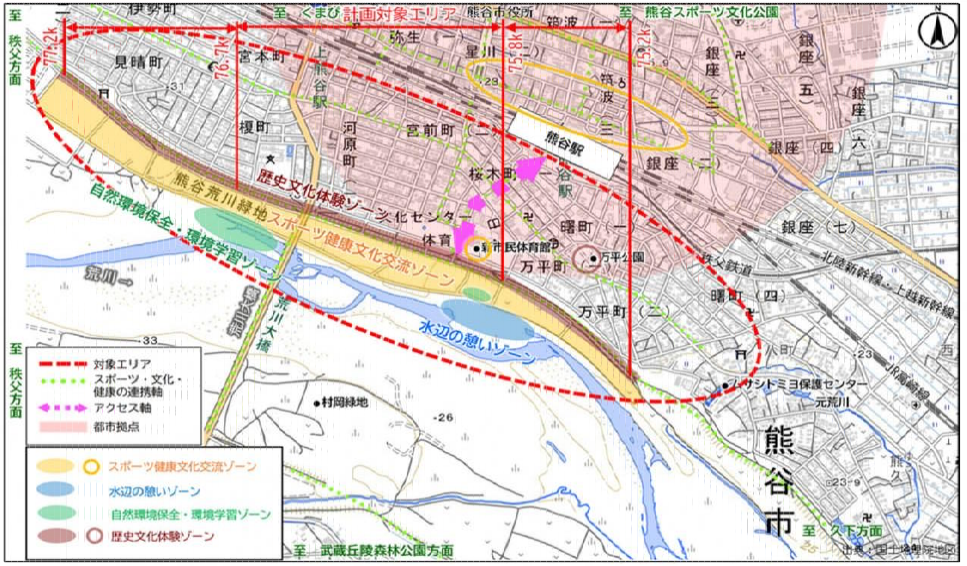


図17　かわまちづくり計画の基本方針･ゾーン設定と各ゾーンの主要機能

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

⑤　地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

堤防上の情報発信施設やイベント広報資料に健康マイレージ事業参加を促す掲示をし、参加数増加を目指します。河川敷で実施する楽しみながら運動や健康づくりを推奨するイベントと健康マイレージ事業の取組の連携により、市民の健康意識の醸成や運動習慣の定着を目指します。

各指標に対する定量的目標を下記に示します。

表3　地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

指標	従前値	目標値
防災活動	1回/年	2回/年
地域交流イベント開催回数	2回/年	3回/年
健康マイレージ事業参加者数	1,500人/年	1,800人/年
自然体験・学習、荒川清掃活動の参加人数	800人/年	1,000人/年



防災活動



健康マイレージ
出典：多摩市　ホームページ





地域交流イベント（タグラグビー体験）



自然体験・学習



荒川清掃活動

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

1-4.推進体制･取組内容

① 協議会、運営組織等の体制(図)

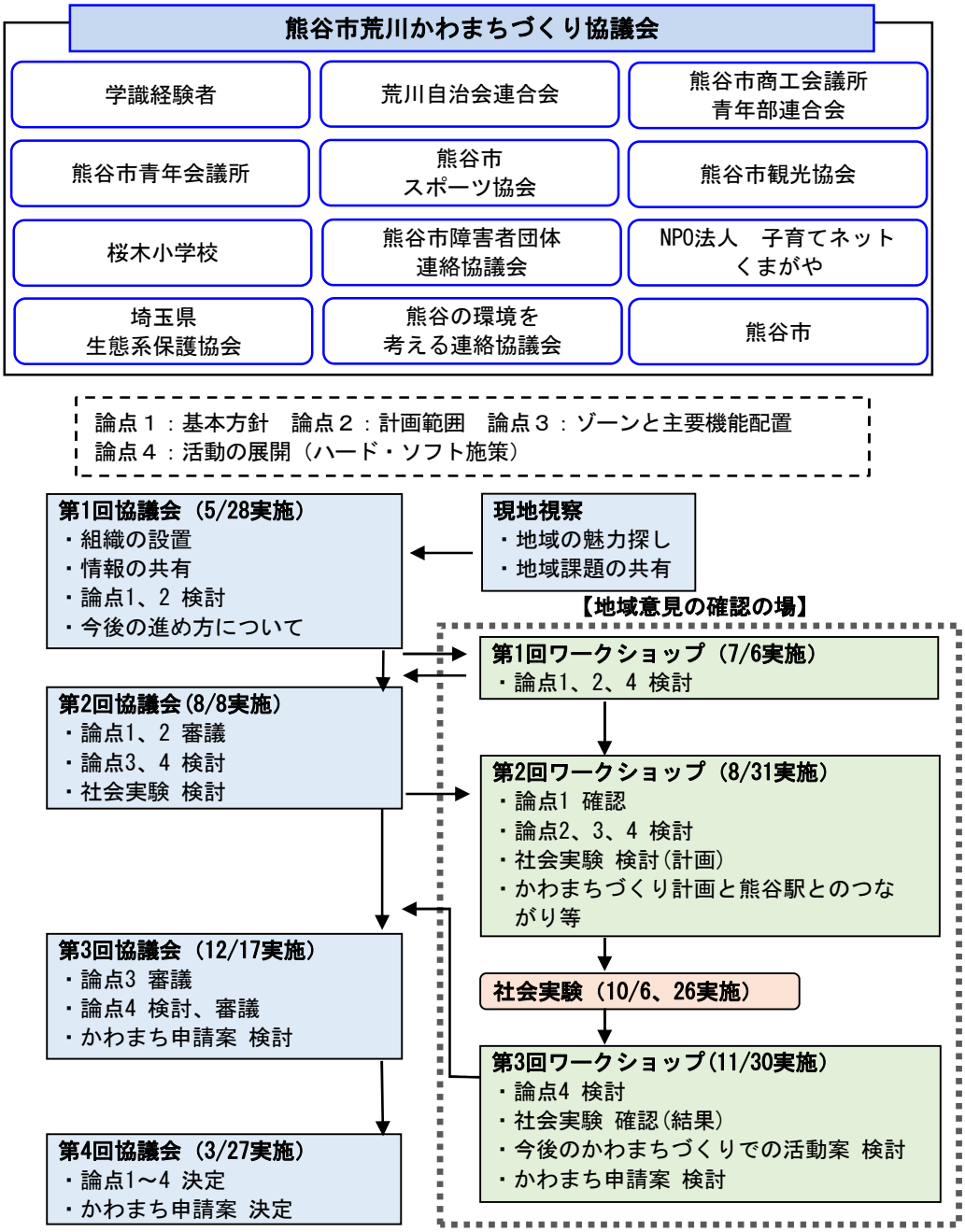


図18 協議会、運営組織等の体制図

② 熊谷市荒川かわまちづくり協議会の開催実績

河川空間とまちの空間が融合した魅力ある地域を創出する取組を実現するため、地域の資源である河川の活用について、今後の方向性及び具体的な手法についての検討を行うことを目的に、熊谷市荒川かわまちづくり協議会を設置しました。

表4 熊谷市荒川かわまちづくり協議会 委員構成

名称	分野	団体名
熊谷市荒川かわまちづくり協議会 （委員数 12名）	学識経験者	埼玉大学大学院 理工学研究科 環境社会基盤専攻 (兼)社会変革研究センター レジリエント社会研究部門
	地区を代表する者	荒川自治会連合会
	商工産業	熊谷商工会議所、一般社団法人 熊谷青年会議所
	スポーツ振興	公益財団法人 熊谷市スポーツ協会
	観光振興	一般社団法人 熊谷市観光協会
	教育	熊谷市立桜木小学校
	福祉子育て	熊谷市障害者団体連絡協議会 NPO法人 子育てネットくまがや
	環境	公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 NPO法人 熊谷の環境を考える連絡協議会
	市職員	熊谷市建設部

表5 熊谷市荒川かわまちづくり協議会の開催経緯

協議会	日程	主な議題
第1回	令和6年5月28日	・組織の設置、情報の共有 ・論点1(基本方針)、論点2(計画範囲)の検討 ・今後の進め方
第2回	令和6年8月8日	・論点1(基本方針)、論点2(計画範囲)の審議 ・論点3(ゾーン設置と主要機能配置)、 論点4(活動の展開(ハード・ソフト施策))の検討 ・社会実験の検討
第3回	令和6年12月17日	・論点3(ゾーンと主要機能配置)の審議 論点4(活動の展開(ハード・ソフト施策))の検討、審議 ・かわまち申請案の検討
第4回	令和7年3月27日	・論点1～4の決定 ・かわまち申請案の決定




図19 熊谷市荒川かわまちづくり協議会の開催状況

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

③　熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催実績

熊谷市かわまちづくりに対する要望・意見の収集や、当事業に対する地域の主体的な参加意欲の向上を図るための社会実験の準備及びふりかえり（評価、課題抽出）のために、行政関係者の他、広く市民の意見を反映させることを目的に、熊谷市荒川かわまちづくりワークショップを3回開催しました。

表6　熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催経緯

ワークショップ	日程	主な議題	参加人数
第1回	令和6年7月6日	・論点1（基本方針）、論点2（計画範囲）、論点4（活動の展開（ハード・ソフト施策））の検討	25人
第2回	令和6年8月31日	・論点1（基本方針）の確認 ・論点2（計画範囲）、論点3（ゾーン設置と主要機能配置）、論点4（活動の展開（ハード・ソフト施策））の検討 ・社会実験の検討（企画） ・かわまちづくり計画と熊谷駅とのつながり等	25人
第3回	令和6年11月30日	・論点4（活動の展開（ハード・ソフト施策））の検討 ・社会実験の結果確認 ・今後のかわまちづくりでの活動案の検討 ・かわまちづくり申請案の検討	17人




図20　熊谷市荒川かわまちづくりワークショップの開催状況

【第1回ワークショップ】

第1回は7月6日（土）に荒川公民館にて、幅広い年齢層の市民の方々25名に参加頂きました。

かわまちづくり計画の骨格となる基本方針や計画範囲、活動・活用のアイデアに関し、ポストイットに意見を記入したり、意見を記入した旗を平面図に立てたりして、意見を出し合いました。

その後、第2回協議会の審議を経て、ワークショップ意見が盛り込まれた基本方針がまとまりました。

【第2回ワークショップ】

第2回は8月31日（土）に荒川公民館にて、幅広い年齢層の市民の方々25名に参加頂きました。

第1回ワークショップ意見及び第2回協議会意見を踏まえ、計画エリア内のゾーン設定や整備メニューなどを具体化したかわまちづくり計画（案）について、賛成・懸念等の意見を出し合いました。

参加者がテーブルを移動して対話を行うワールドカフェ形式で意見交換を行い、参加者意見の相互理解を深めました。

【第3回ワークショップ】

第3回は11月30 日（土）に荒川公民館にて、市民の方々17名に参加頂きました。

第2回ワークショップ意見及びかわまちづくり社会実験の結果を踏まえて作成したかわまちづくり計画（案）について、平面図やイメージパースをもとに意見反映の確認を行いました。また、今後のかわまちづくりの活動（案）について、賛成・懸念等の意見を出し合い、得られた活動案のシール投票を行いました。

その後、第3回協議会の審議を経て、アイデアや具体策等の多くのワークショップ意見が盛り込まれたかわまちづくり計画（案）がまとまりました。

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り



図21　第3回ワークショップの検討内容（グラフィックレコーディング）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

1-5.安全な河川利用に向けた取組

①安全な河川利用のための運営体制の確保

河川利用者の安全確保に向けて、水辺の体験活動を行う場合は、必要に応じて、熊谷市消防本部等と連携し、安全面での指導及び安全確保を行う体制を確保します。

1）急流河川の救助者として認定を受けた者：スイフトウォーターレスキューの技能を有する者等
2）水難救助に関する資格を有する者：潜水隊員（潜水士、JAMSTEC潜水技術研修受講者）等

②子ども等を対象とする川の安全教室の取組

令和6年度に実施した熊谷市荒川かわまちづくり社会実験（荒川自然観察会R6.10.26実施）において、河川管理者および桜木小学校の協力のもと、小学生児童及び保護者を対象に、自然観察会と合わせて「楽しみながら学ぶ川の安全教室」を実施しました。

本社会実験の取組を踏まえ、次年度以降も引き続き協議会、河川管理者により詳細を協議し、継続的な活動として取組みます。



楽しみながら学ぶ川の安全教室
（R6年度社会実験　荒川自然観察会）

1-6.都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

①都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組については、「荒川公園周辺再整備基本計画（案）」と連携し前向きに検討を行っていきます。

堤防と新市民体育館との連絡通路を整備することで、新市民体育館利用者と高水敷利用者をつなぐ交流の場（動線の確保）とし、イベント時に連絡通路横周辺に整備する側帯を活用したキッチンカー等の展開により賑わいの創出を図ることを社会実験を通じて検討していきます。

1-7.生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

自然環境保全・環境学習ゾーンを設定し、「熊谷市荒川の豊かな自然環境の情報発信」「市民参加型の自然環境保全活動の充実」「自然環境保全の担い手育成」の3つのメニューを計画しております。

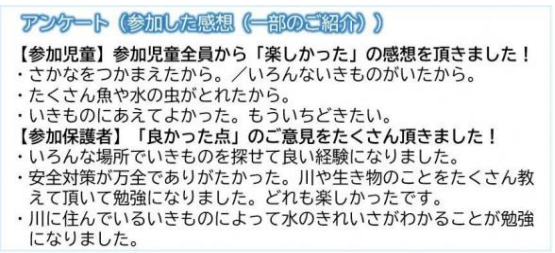
令和6年度に河川管理者および桜木小学校の協力のもと、小学生児童及び保護者を対象に、熊谷市荒川かわまちづくり社会実験（荒川自然観察会R6.10.26実施）を実施しました。

本社会実験の取組を踏まえ、次年度以降も引き続き協議会、河川管理者により詳細を協議し、継続的な活動として取組みます。

①荒川中流域の自然環境特性を踏まえた生物多様性を高める空間整備（捨て石設置）
・捨て石により、土砂が自然堆積し、湿地環境が形成されることにより、在来種による水際環境（エコトーン）の形成を促し、河川の生物の生息環境の充実を図ります。
②子どもたちが安心して水辺に近づき、水生生物と触れ合える空間の整備（散策路（舗装なし）、階段（低水護岸））
③河川敷地での在来植生を中心とした野原の創出や水辺へのエコトーンの保全、これらをフィールドとする環境学習活動の充実（学校連携、市民参加）







荒川に住む生き物探し体験
（R6年度社会実験　荒川自然観察会）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

＜様式3＞

2.ソフト施策の個別施策計画書

2-1.河川名

荒川水系　荒川

2-2.提案事業の実施範囲

熊谷市（計画範囲：荒川左岸75.2k～77.2k、当事業の整備範囲：荒川左岸：75.8k～76.7k）

2-3.提案事業の概要

熊谷市を占用許可者として、行政や地元関係者、有識者等から構成する「熊谷市荒川かわまちづくり協議会」により検討を実施しながら、民間事業者と連携して河川空間の活用を図っていきます。

ソフト施策では、社会実験を通じて地域ニーズを踏まえ、地域活性化や賑わい創出に資するように、以下の内容を実施していきます（次頁令和6年度社会実験結果レポート）。

① 地域の防災活動の充実（実施主体：国・市・地域）

・防災訓練、防災学習イベントの実施（川の防災体験、遊びながら防災に備えるイベント等（参考R6年度社会実験イベント水防災かるた、テント利用体験））

② 公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致（実施主体：市・地域）

・魅力ある休憩拠点運営事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり（荒川公園周辺再整備基本計画（案）と連携）

③ 交通安全、防犯対策自転車の交通ルール・マナー周知活動や交通安全活動充実（実施主体：市）

・自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全活動の充実（交通安全学習イベント利用）

④ 川の安全な利用の普及活動の充実（実施主体：国・市）

・川の安全な利用のためのルールや川の危険情報の周知、子どもへの安全教育の充実（安全教室の開催）

⑤ 地域交流・健康づくり、スポーツイベント活動の充実（実施主体：市）

・多様なイベント利用の充実（ウォーキングイベントや小中学生を対象とした陸上教室等）

⑥ 川に親しむ水辺のアクティビティイベントの活動の充実（実施主体：市）

・水辺の健康・スポーツイベント利用の充実（健康マイレージ事業、ラグビー大会等）

⑦ 水辺環境の保全、河川敷での在来植生を中心とした野原創出など、荒川の豊かな自然環境を題材とした環境学習活動の充実（学校連携、市民参加）（実施主体：国・市・地域・環境団体）

・自然学習イベントの充実（学校と連携した、水辺の魚、水生生物を観察する川の自然観察会や高水敷の在来野草復活に向けた取り組み）

⑧ 堤防散策の魅力づくりの活動充実（実施主体：市・地域）

・四季を通じた魅力、見どころの充実と発信、堤防上の情報発信施設に荒川周辺の四季の掲載

⑨ 熊谷桜堤など風景の保全、継承の活動支援（実施主体：市・地域）

・かわまちづくりを通じた熊谷桜堤の魅力及び、持続可能な保全継承のあり方（目標、保全活動計画、担い手育成、資金調達等）の情報発信による熊谷桜堤の保全、継承活動の充実

⑩ 歴史資源を活用したまちとの連携の活動充実（実施主体：市）

・歴史や文化を学ぶ歴史散策ルートやイベント利用の充実（ウォーキングイベントの開催、堤防上の情報発信施設に荒川周辺の歴史散策ルート等を掲載）

⑪ 水災害の歴史、治水遺産の情報発信の充実（実施主体：市）

・周辺の歴史資源との連携メニューの具体化、堤防上の情報発信施設に掲載



熊谷市荒川かわまちづくり
社会実験

会場 / 熊谷荒川緑地（入場無料）
時間 / 10：00～15：00 ※雨天中止

「かわまちづくり」とは

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取り組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取り組みです。

- 河川敷地内は駐車スペースが限られています。徒歩か自転車でのご来場にご協力をお願いいたします。
- 会場内外での手荷物の管理やケガについては、自己責任にてお願い致します。
- ゴミは各自でお持ち帰りください。
- 気象状況によりイベント内容は変更になる場合があります。
- 会場ではスタッフが写真の撮影を行います。これらの撮影物はHPやチラシ等に使用・掲載させていただくことがございますので、予めご了承願います。

詳細はQRコードからご確認ください。

状況により一部変更または中止の可能性があります。

手ぶらできても遊べるコーナー

荒川緑地でいろいろな遊びを体験しよう！

自由に組み合わせて遊べる移動式遊具や、モルックなどのインクルーシブな遊びを、どなたでも無料で楽しめます。

場所：あそびのひろば

モルック、風船バレーボール大なわの貸し出しもあるよ！

※1 インクルーシブな遊び
障がいの有無や年齢、性別、国籍などに関わらず、すべての子どもが遊べる遊び

手ぶらでもピクニックコーナー

自然の中でくつろごう！

誰でも自由に使えるイスやテーブル、ハンモックを設置します。
開放的な水辺空間でくつろいでみませんか？
遊びながら防災を学べる、ポールテント張りも体験できます。

場所：ピクニックひろば

ポールテント張り体験
- 第1回 10：00-11：00（先着6組）
- 第2回 11：00-12：00（先着6組）



水辺の生きものコーナー

荒川の水辺の生きものと触れ合おう！（桜木小学校とのコラボ企画）

川にはどんな生きものがいるのかな？
荒川河川敷に生息する生きものの展示や桜木小学校の児童が行う水質調査の結果をご覧いただけます。

場所：いきものひろば

水辺の生きものを見てみよう！

ラグビーボールに触れてみようコーナー

タグラグビーを体験してみよう！

タグラグビーのルール説明やパス練習など、楽しく学んで体験できます。
簡単なので、こどもから大人までどなたでもご参加いただけます。

場所 ：あそびのひろば（自由広場）
持ち物：動きやすい服装・運動靴
飲み物・タオル

ラグビーボールを投げてみよう！

キッチンカーが出店予定！





スクスク！クマガヤ ©kumagaya City

熊谷市荒川かわまちづくり
- 開催日： 2024年10月6日（日）
- 会　場： 熊谷荒川緑地
- 主　催： 熊谷市建設部河川課

お問い合わせ
熊谷市建設部河川課（担当：瓜田・溝口）
TEL：048-524-1111 FAX：048-525-8878
埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り



～熊谷市荒川かわまちづくり 社会実験 報告～

|日　　時：10月6日(日) 10時～15時　　|会　　場：熊谷荒川緑地 自由広場
|参加人数：60～70名（うち小学生以下20人程度）
|実施概要：かわまちづくり計画への地域参加の取組として、水辺の新たな利活用にチャレンジする社会実験を実施しました。今回チャレンジしたメニューは、地域の仲間やご友人、ご家族で楽しく過ごす空間や、楽しみながら熊谷のラグビー文化や荒川の自然環境への親しみ、豪雨災害への備えの意識を醸成する利用にチャレンジしました。当日は小雨気味の天気でしたが、60～70名の方に参加頂き、参加後にアンケートにもご協力いただきました。ご協力ありがとうございました。

手ぶらできても遊べるコーナー

誰もが自由にスポーツや健康づくりを楽しむ空間づくりにチャレンジ！

自由広場内に、障害の有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、すべての子どもが遊べるインクルーシブな遊び場をつくりました。自由に組み合わせて遊べる移動式遊具や、モルック、風船バレーボールなど、子どもから大人まで楽しみました。

こどもアンケート（感想）

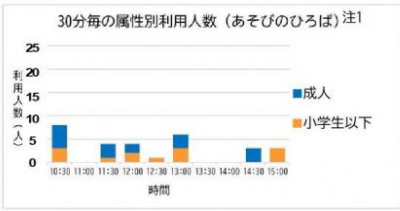
・モルックが楽しかった
・ふうせんバレーがたのしかった
・ゆうぐがたのしかった



ブロックの配置を変えることで、年齢に応じた遊び方ができる遊具です。幼児から小中学生、大人(^^)まで、みんなで楽しんでいました。



みんなで一緒に跳ねて遊べるジャンピング遊具です。友達と飛び跳ねて楽しんでいました。





グループで大縄とびを楽しんでいました。



元気よく風船バレーボールを楽しんでいました。



モルックは木の棒を倒して数を合計して楽しむゲームです。子どもから大人まで一緒に楽しんでいました。



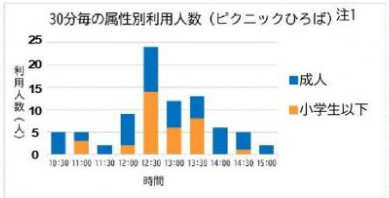
手ぶらでもピクニックコーナー

多様な世代の人との出会いと交流を育む憩いの空間づくりにチャレンジ！

荒川緑地の広場にイスやテーブルを設置して休憩コーナーとしました。お昼の時間帯を中心に多くの方が休憩したり、キッチンカーのご飯を食べたり、遊んでいる子ども達を見守りながら談笑をして寛いでいました。ハンモックでは、子どもから大人まで、のんびりとした時間を過ごしていました。

こどもアンケート（感想）

・ハンモックが楽しかった
・大人とやったかるたが楽しかった





遊びながら災害にそなえる

豪雨災害への備えを学ぶ水防災カルタやテント利用を体験していただきました。









（裏面につづく）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

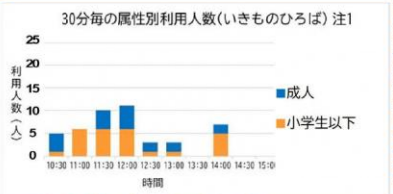
水辺の生きものコーナー

荒川の水辺の生きものと触れ合いイベントにチャレンジ！

荒川の豊かな自然環境の魅力の情報発信を目的に荒川に生息する水生昆虫や魚などの生き物の展示や、ふれあいコーナーを設けました。
子どもたちは生き物との触れ合いを夢中になって楽しんでいました。大人の方も、荒川の生き物の種類が多い事を知って驚いていました。
保護者の方からは、「子どもたちが生き物に触れ合う機会が少ないので、とてもいいですね」とのコメントをいただきました！

こどもアンケート（感想）

・さかなをはじめてさわったのでたのしかったです
・さかなをさわれてうれしかったです
・思ったよりたくさん種類がいて楽しかった



水槽展示（魚）



荒川に色々な魚がいるんだなぁ





テナガエビ



オイカワ

ぜ～んぶ荒川で見つけた魚たち

在来種	国内外来種	国外外来種
・アユ ・オイカワ ・カマツカ類	・フナ類 ・スゴモロコ類 ・モツゴ・タモロコ	・コクチバス ・ブルーギル ・コイ



テナガエビにさわったよ！



水槽展示（水生昆虫・甲殻類）



トンボの幼虫コオニヤンマだよ

これなんですか？



コオニヤンマ

ラグビーボールに触れてみようコーナー



スポーツや健康づくりを楽しむイベントにチャレンジ！

スポーツを通じた地域交流や熊谷ラグビー文化の発信を目的に熊谷市ラグビー部とコラボし、タグラグビー体験イベントを実施しました。
パスのやりかたやルールを講師に教えてもらい、子ども達が元気いっぱい、タグラグビーを楽しみました。

こどもアンケート（感想）

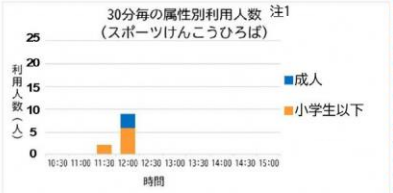
・タグラグビーが楽しかったです
・タグラグビーでみんなで協力できてたのしかったです！
・タグラグビーがかってうれしかったし、楽しかったです



タグラグビー体験



タグラグビーは子どもから大人までだれでも楽しめるスポーツです



パネル展示コーナー

下記のパネル展示を行いました

・**熊谷市荒川かわまちづくり計画検討内容のご紹介**
かわまちづくり計画基本方針や市民ワークショップの検討状況、市民アンケート調査結果をまとめて紹介

・**防災パネル（ハザード情報等）**
災害リスク情報の共有を目的に熊谷市防災ハザードマップや熊谷水位観測所の川の防災情報を紹介



・**荒川の自然環境**
荒川の自然環境（荒川読本）や国土交通省の荒川水系流域治水プロジェクトの内容を紹介



アンケートコーナー（一般用・子ども用）

参加いただいた皆さまに、参加した感想やかわまちづくり計画へのご意見をいただきました。ここでは、小学生以下の参加者から頂いたご意見の一部をご紹介します。

こどもアンケート：かわまちづくりへのみんなの意見（抜粋）

Q. 荒川や荒川緑地が将来どんな場所になったらいいと思いますか

・お水遊びがしたい
・かくれんぼができるばしょがほしい
・みんなであそべるばしょがほしい
・友達とアスレチックがしたい
・宝探しをしたい!!
・川遊びするところがほしい
・自分でつかまえた生き物を展示できる場所になってほしい
・動物園が欲しい
・友達とサッカーをしたい
・お祭りができる場所になってほしい





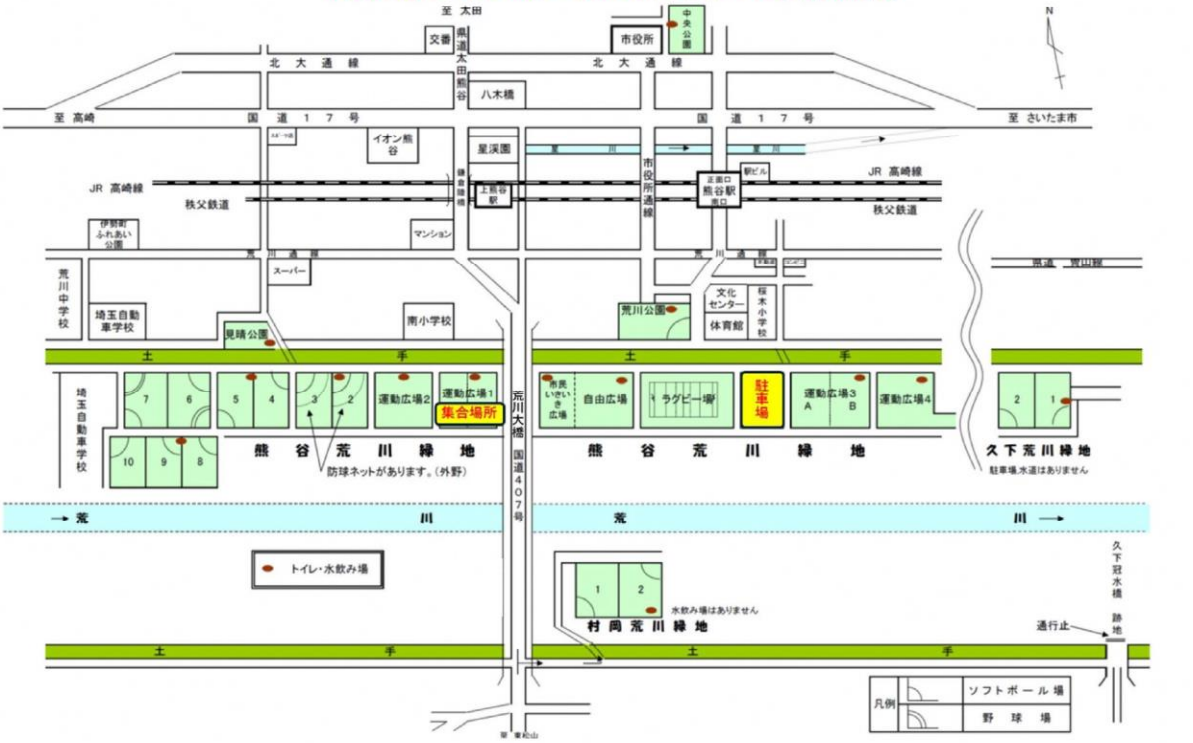
※注1　カメラ画像を元に30分間隔でその時点の利用人数を計測（全利用人数とは異なる）。属性分類は目視で判断可能な範囲で分類

【お問い合わせ】　熊谷市建設部河川課（担当：瓜田・溝口）　TEL：048-524-1111　FAX：048-525-8878

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

集合場所案内図

午前の部：10：00～12：00（9：30受付開始）
午後の部：13：00～15：00（12：30受付開始）



2024 熊谷市荒川かわまちづくり社会実験

あらかわしぜんかんさつかい

荒川自然観察会

10/26(土)

午前の部：10:00～12:00（9:30受付開始）
午後の部：13:00～15:00（12:30受付開始）

※雨天の場合は中止となります。

～持ち物～
・マリンシューズ、履き古したくつ、かかとのついたサンダルなど
・水筒、ぼうし
・タオル、着がえ(必要なんのみ)
・観察ケースや「たもあみ」は貸し出します。
（自分のプラケースやたもあみを持ってきただいた人はどうぞ）





水辺の生きものをつかまえて水質調査をします。
「生物多様性」について学びましょう
おとなの人と一緒に来てね。

応募締切：10/24(木)

～保護者の皆様へ～
- 当日は保護者同伴（児童3名につき最低1名）でご参加いただきますようお願い申し上げます。
- 会場内外での手荷物の管理やケガについては自己責任にてお願い致します（参加される児童の皆様には当日傷害保険に加入いただきます（保険料は事務局負担））。
- ゴミは各自でお持ち帰りください。
- 気象状況によりイベント内容は変更になる場合があります。
- 川に入る人数は安全上、定員数を設けていますので、参加ご希望の時間帯を調整させていただく場合がございます。
- 会場ではスタッフが写真の撮影を行います。これらの撮影物は熊谷市のHPやチラシ等に使用・掲載させていただくことがございますので、予めご了承願います。
- 河川敷地内は駐車スペースが限られています。徒歩や自転車でのご来場にご協力をお願いいたします。

主　催　：熊谷市建設部河川課（担当：瓜田、溝口）問合せ先：048-524-1490
事務局　：いであ株式会社（担当：土田、婦）　問合せ先：r6kumakawa@ideacon.co.jp

荒川自然観察会参加申し込み

■申し込み方法：下記の❶❷いずれかの方法で申し込みください。
❶右のQRコードより申し込みフォームへアクセスしお申込みください。
❷必要事項をご記入の上、r6kumakawa@ideacon.co.jpへメールをお送りください。

■必要事項：①児童氏名（漢字、ふりがな）②児童の学年（年生）③児童身長（cm）④保護者氏名
⑤保護者の当日参加（参加or代理（代理者氏名））⑥参加希望時間帯（午前の部or午後の部）
⑦緊急時連絡先電話番号 ⑧メールアドレス

※頂いた個人情報は当イベントの開催にあたっての名簿整理や必要事項の連絡以外には使用しません。
※保護者の当日参加・代理及び参加希望時間帯はいずれかをご記入ください。
※身長はライフジャケットのサイズ選定のために必要な情報です。
※r6kumakawa@ideacon.co.jpからのEメールを受信できるよう迷惑メール設定やメールソフトを設定してください。
※雨天により中止する場合等はメールにてご連絡いたします。

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

荒川自然観察会　報告

|日　　時：10月26日(土) 13時～15時　　|会　　場：熊谷荒川緑地 河川敷
|内　　容：自然観察会　　|参加人数：小学生6人、保護者7人、その他（見学）7人



実施概要：

荒川の水辺の新たな利活用の試みとして、熊谷市と桜木小学校がコラボし、荒川の豊かな自然環境を体感し学ぶことを目的とする自然観察会を開催しました。

荒川大橋上流の浅瀬やワンドを活用し、事前に応募頂いた親子（児童・保護者）を対象に、専門家による詳しい生き物解説のもと、水辺の生き物探しや、生き物を用いた水質調査などを体験して頂きました。

また、子どもたちの安全な利用のため、楽しみながら学ぶ川の安全教室や、水辺への安全なアクセス路の試行を行いました。

学習メニュー：

1. 楽しみながら学ぶ川の安全教室
2. 荒川に棲む生き物探し体験＆専門家による生き物解説
3. 生き物による水質調査
4. パックテストを用いた水質検査
5. アンケート





荒川に住む生き物探し体験

網を使って、浅瀬とワンドの２箇所で生き物を探しを行いました。水生昆虫や底生生物、魚の稚魚を見つけました。



例.コオニヤンマ
ヤゴ（トンボの幼虫）
ややきれいな水を好む生き物



専門家による生き物解説

生き物の名前や好む環境を確認しました。



生き物を用いた水質調査 川がどれくらいきれいか判定

生き物の種類と数で川がどれくらいきれいか判定しました。



パックテストを用いた水質検査

生き物を用いた水質調査の結果とパックテストを用いた水質検査の結果を比べてみました。



活用教材：国土交通省・河川財団×うんこドリル



楽しみながら学ぶ川の安全教室

アンケート（参加した感想（一部のご紹介））

【参加児童】参加児童全員から「楽しかった」の感想を頂きました！

・さかなをつかまえたから。／いろんないきものがいたから。
・たくさん魚や水の虫がとれたから。
・いきものにあえてよかった。もういちどきたい。

【参加保護者】「良かった点」のご意見をたくさん頂きました！

・いろんな場所でいきものを探せて良い経験になりました。
・安全対策が万全でありがたかった。川や生き物のことをたくさん教えて頂いて勉強になりました。どれも楽しかったです。
・川に住んでいるいきものによって水のきれいさがわかることが勉強になりました。





ワンドに住む魚の確認＆投網体験

【お問い合わせ】　熊谷市建設部河川課（担当：瓜田・溝口）　TEL：048-524-1111　FAX：048-525-8878

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

＜様式4＞

3.ハード施策の個別整備計画書

3-1.河川名

荒川水系　荒川

3-2.整備範囲

熊谷市（計画範囲：荒川左岸75.2k～77.2k、当事業の整備範囲：荒川左岸：75.8k～76.7k）

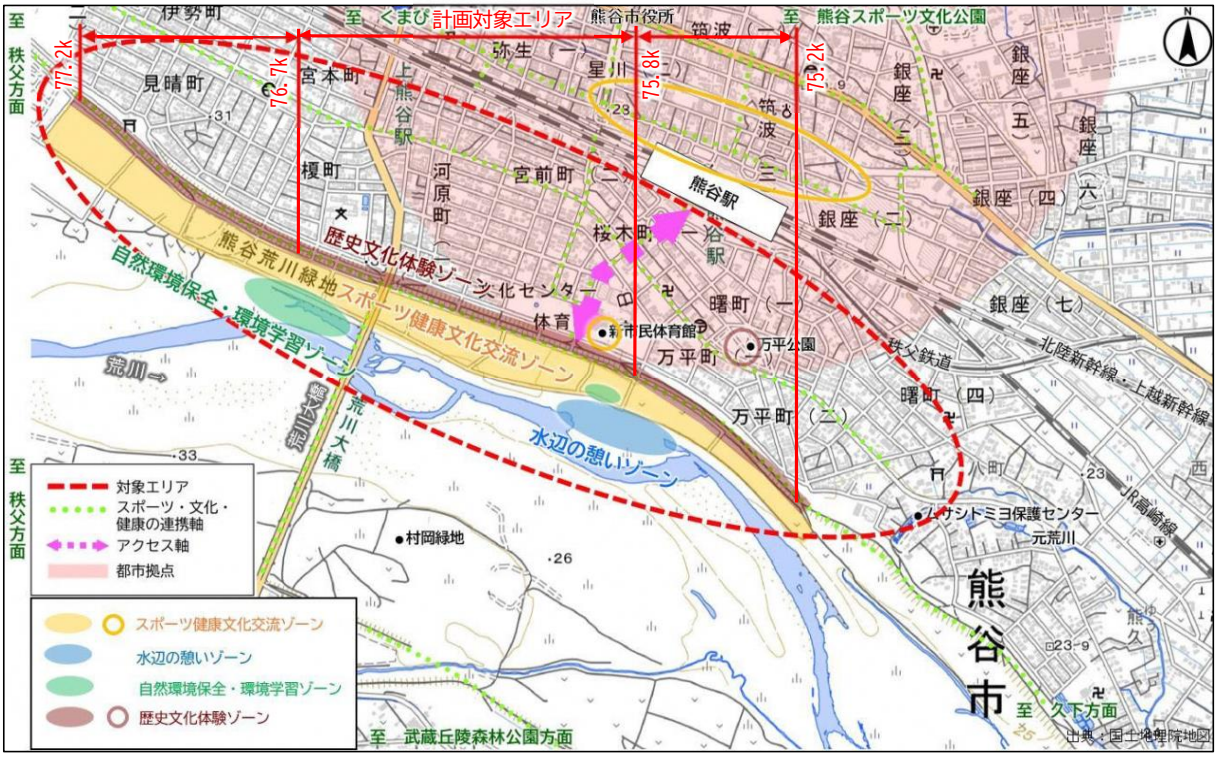


図22　熊谷市かわまちづくりゾーニング図

3-3.整備内容

以下の施設の整備を検討します（表7と同じ整備番号を図23、3-4.1に示す）。

表7　熊谷市かわまちづくり計画役割分担表

	熊谷市	国土交通省
ハード	●休憩施設（②・⑧） ・トイレ、ベンチ、あずまや ●体育館と堤防を繋ぐ連絡通路（⑦） ●荒川緑地再整備 ・駐車場（⑨） ・スポーツ施設・広場等の維持充実 ドッグランの整備（⑩） ●水辺利用 ・水辺の散策路（⑫） ●情報発信施設（⑪） ・各種サイン ・誘導路面標示 ●地域文化伝承施設 ・桜堤の保全（⑯） ●堤防天端 ・歩行者、自転車の通行分離表示（①） ・堤防道路の街灯整備（⑤） ●自然学習環境 ・散策路（舗装なし）（⑮）	●堤防整備（嵩上げ、拡幅）※ ●階段式護岸（⑥） ●側帯（⑱） ●堤防坂路（堤防 川表・裏、自転車・車両用）（④） ●堤防坂路（堤防 川表・裏、バリアフリースロープ）（③） ●階段（堤防 川表・裏）（⑰） ●水辺利用 ・親水護岸（⑬） ・捨石（⑬） ●自然学習環境 ・階段（⑭）

整理番号（赤：国土交通省）
整理番号（青：熊谷市）

※別途、堤防整備事業で整備

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

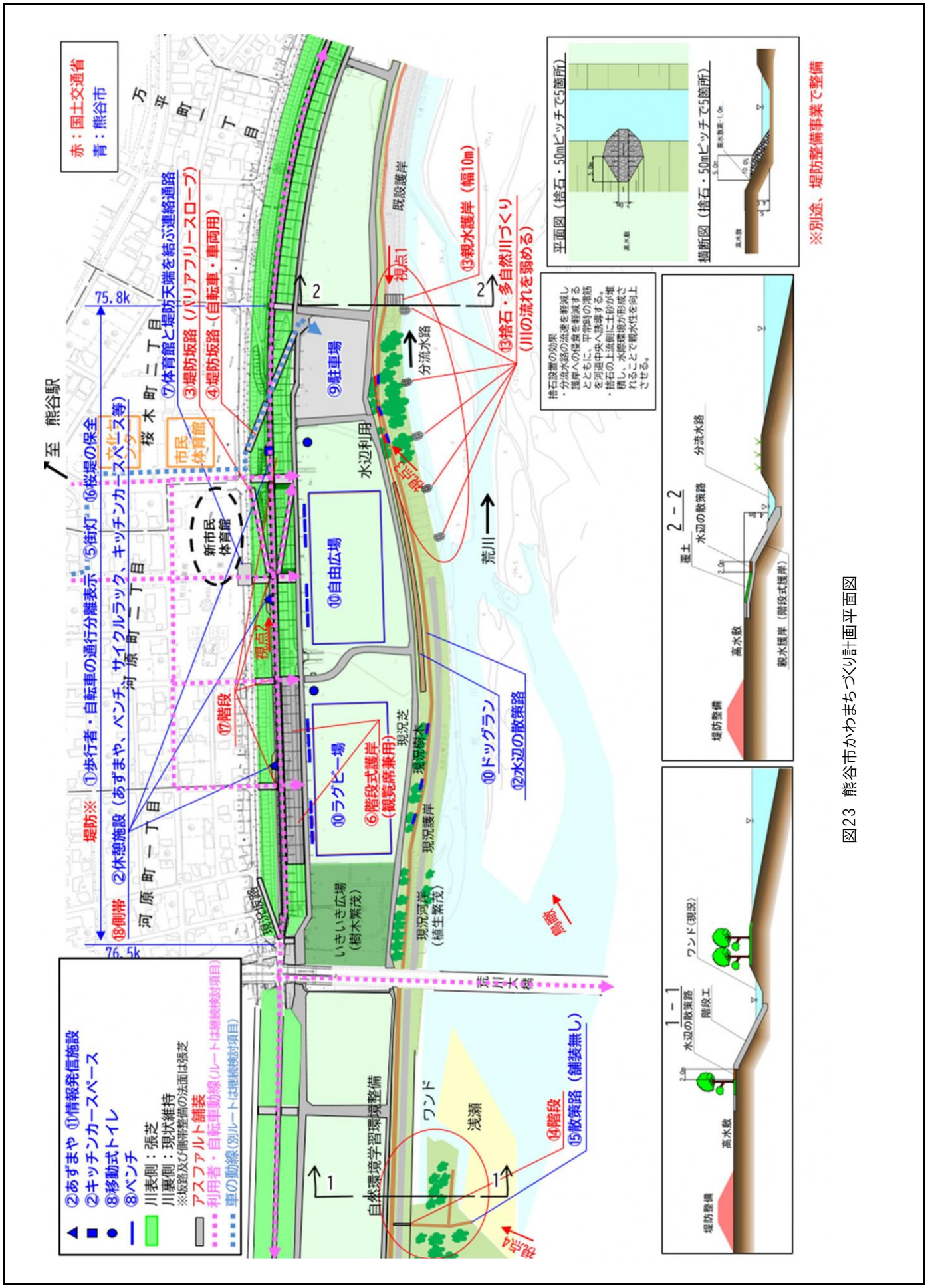


図23 熊谷市かわまちづくり計画平面図

全体鳥瞰図

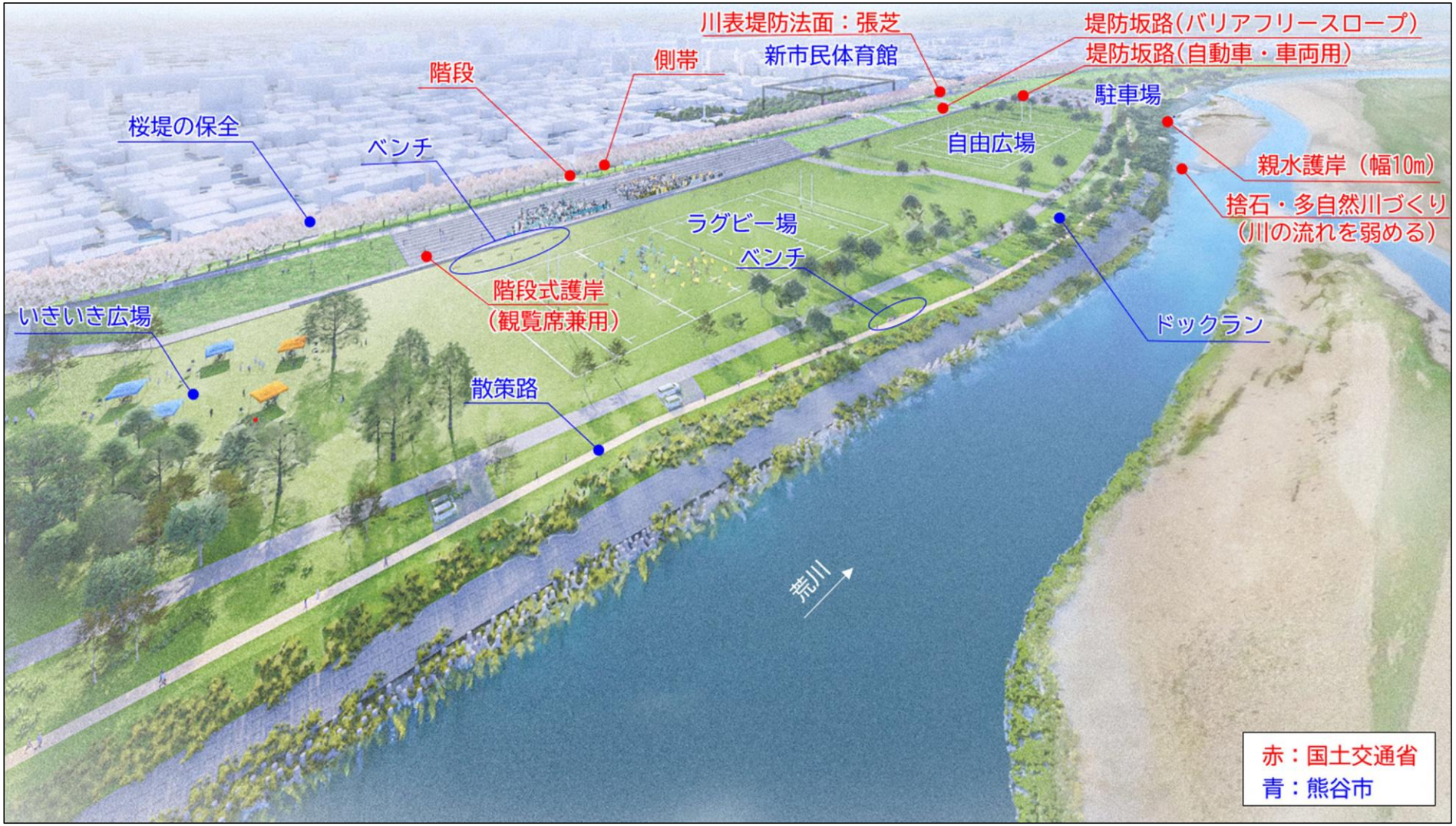


図24　熊谷市かわまちづくりイメージ図（荒川大橋より下流側）

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

水辺利用（親水護岸、捨石）（視点1）



側帯、堤防天端、休憩スペース（視点2）



整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

水辺の散策路、休憩スペース（視点3）



多自然川づくり、自然環境学習環境整備（視点4）



整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

3-4.整備の実現方策

3-4.1 関連事業の整備計画

熊谷市では、堤防整備事業と熊谷市荒川かわまちづくり事業に加えて荒川公園周辺再整備事業（図24）が実施中であり、これらの事業の一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図ります。また、具体的な取組内容及び取組内容に対する課題、留意点の整理表を以下に示します。

（ｉ） 共通

赤：国土交通省
青：熊谷市

【地域の安心安全に寄与する整備（洪水・台風）】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)堤防整備 **1)堤防整備（嵩上げ、拡幅）【堤防】**	㋐周辺住宅や桜並木への影響を軽減する堤防拡幅（盛土）の検討（（堤外地側/川側）への盛土を基本として、国（河川管理者）と調整を図る） ㋑堤防拡幅（盛土）工事による既設堤防の在来野草への影響と保全対策の検討	1)㋐国 ㋑国・市

【地域防災力を高める地域活動を支援する空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)地域の防災活動を行うための環境整備 1）救急活動・防災活用に必要なオープンスペースの確保（救急ヘリポート、災害時の避難スペース、災害瓦礫置き場、大雪時の雪置き場等）**【自由広場等】** **2）堤防坂路の整備（③④）**（緊急車両用のアクセス坂路、避難者用バリアフリースロープの整備）**【堤防坂路】** **3）新市民体育館との防災拠点連携（⑦）**（防災倉庫等）**【堤内地】**	－	1） 市 2） 国 3） 市
(2)地域の防災訓練・防災教育活動支援 **1)情報発信施設（防災情報案内看板等の設置）（⑪）**（災害リスク、過去の洪水、治水の歴史、流域治水等）**【自由広場等**（実施：国・市・地域）**】** A）地域の防災活動の充実（防災訓練、防災学習イベント実施）**【自由広場等】**	㋐地域の防災活動の充実（実施体制・実施メニューの具体化）	1） 市・地域 A）国・市・地域

（ⅱ） スポーツ健康文化交流ゾーン

【荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）】
【スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間】
【市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)堤防道路の利用を充実する環境整備 **1）堤防側帯の整備（⑱）【堤防】** **2）堤防道路の休憩施設の整備（②）**（堤防の側帯を活用したベンチ・あずまや又は緑陰、サイクルラック）**【堤防】** **3）情報発信施設（案内・誘導サインの整備）（⑪）【堤防】**	㋐堤防道路利用の暑さ対策の検討（遮熱性舗装材の選定等。堤体管理、一般般利用者の通行、自然景観との調和、夏場の暑さ対策に留意する） ㋑堤防道路の暑さ対策の検討（緑陰の充実等）交通や河川管理の支障とならないよう留意する。 ㋒荒川沿いの自転車ネットワークの充実（国道横断部など） ㋓情報発信施設の維持管理体制、方法の検討 ㋔情報発信の方法・内容の検討（PR活動） ㋕落雷時の避難場所の検討（あずまやに避雷針の設置等）	1)国 2) 3)市
B）堤防散策の魅力づくりの活動充実（四季を通じた魅力、見どころ）**【堤防】**	㋐熊谷らしさの魅力の充実と発信（桜の開花時期（春）以外　の季節の魅力） ㋑魅力ある休憩拠点の運営事業者の誘致（新市民体育館連携） ㋒まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり	市・地域
C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致**【堤防】**	㋐魅力ある休憩拠点運営事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり	市・地域

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

【荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）】
【スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間】
【市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間】

赤：国土交通省
青：熊谷市

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
4）堤防坂路の整備（バリアフリースロープの整備）（③） 階段の整備（⑰）（再掲）【堤防】	㋐手摺、踊り場など、必要な安全対策の検討（追加）	国
5）堤防道路の拡幅（①） 歩行者と自転車の通行分離表示（①） （交通安全対策）【堤防】	㋐堤防道路の除草作業等の維持管理	国・市
D）交通安全、防犯対策自転車の交通ルール・マナー周知活動や交通安全活動充実【堤防】	㋐自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全活動の充実 ㋑交通安全活動の実施体制、実施メニューの具体化 ㋒歩行者等の安全確保のためのバイク利用制限の検討（追加）	市
6）堤防道路の街灯整備（⑤）（防犯対策）【堤防】	㋐街灯の整備範囲	市
（2）花火大会や桜祭りの大規模イベント利用を充実する環境整備 1）階段式護岸の整備（観覧席兼用）（⑥）【堤防】	㋐イベント時の階段部の雑踏事故防止のためのハード・ソフト施策の検討 （ハード施策：まち側の階段拡幅） （ソフト施策：動線計画、交通誘導、安全管理） ㋑階段式護岸の最適配置・規模・構造の検討 （河川空間利用の充実と自然環境保全、夏場の暑さ対策の両立に留意する）。	1）国 ㋐㋑国・市
2）新市民体育館と堤防を繋ぐ連絡通路の整備（⑦） 【堤防】 3）新市民体育館との休憩拠点連携 （新市民体育館との連携メニュー、休憩、情報発信、管理棟機能）　【堤防】	㋐新市民体育館内施設との連携に向けた計画調整の必要性 ※新市民体育館内のユニバーサルデザイン対応施設の共有（休憩施設（カフェ・トイレや観覧席）、エレベーター、ロッカー等） ㋑連絡通路の位置検討 ㋒桜堤の景観への影響軽減	市
（3）水辺、山並みの風景、桜堤の景観の魅力の充実と、その保全と継承 1）熊谷桜堤の保全対策（⑯）（工事影響の最小化） 【堤防（実施：市）】	㋐かわまちづくり工事による桜堤への影響を最小化する措置の検討（構造、施工方法、代替措置、桜の更新計画と連携）	市
（4）高水敷の利用を充実する環境整備 1）河川敷地内の休憩施設（⑧）（ベンチ、移動式トイレ、緑陰等）【自由広場・グランド等】	㋐河川敷地内の木陰の充実 ㋑河川敷地内の歩行者の主動線のバリアフリー対応の検討（堤内地（まち側）⇔堤防道路⇔広場⇔トイレ、休憩施設、河川敷地駐車場、水辺）（最短経路、バリアフリースロープ、施設のバリアフリー対応） ㋒イベント実施のための指導者の育成の検討 ㋓イベント利用など多様な利用に配慮したインフラ整備の検討 ㋔新市民体育館施設との連携の検討	市
2）駐車場整備（⑨）（必要な駐車・駐輪機能の充実） 【自由広場・グランド等（実施：市）】	㋐駐車場規模・配置の最適化の検討（バス利用を考慮） ㋑徒歩・自転車（シェアサイクル等）・公共交通アクセスの充実と連動した駐車需要マネジメント ㋒安全な利用、多様なニーズに対応する駐車場の運用方法の最適化の検討（日常時・イベント時） ㋓周辺まちづくり（土地利用・歩行者動線・新市民体育館整備）と連携の検討 ㋔イベント時の体育館前道路の路上駐車対策の検討 ㋕駐車場の追加整備の検討（見晴公園坂路側、各広場周辺） ㋖駐車場機能の充実と環境配慮の両立の検討（夏場の暑さが増すことや自然環境への影響の懸念事項への対応）	市

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

【荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）】
【スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間】
【市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間】

赤：国土交通省
青：熊谷市

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
3）堤防坂路の整備（④）（自転車・車両用） （交通安全対策（拡幅・線形改良）（再掲） **【自由広場・グランド等**（実施：国）】	㋐桜木小学校前坂路と別ルートの坂路の検討（見晴公園側坂路の改良、万平公園側坂路の追加整備、荒川大橋から河川敷への坂路の追加整備） ㋑運用方法の最適化の検討（イベント時の坂路の混雑対策、桜木小学校前坂路の時間制限の解除、交通安全対策（自転車と車両の通行空間分離表示・一方通行）等） ㋒花見利用を考慮した堤防坂路の配置の検討	3）国 ㋐㋑㋒市
4）スポーツ施設・広場等の維持充実、ドッグランの整備（ラグビー場、グランド、自由広場）（⑩） **【自由広場・グランド等】**	㋐ニーズを踏まえたスポーツ施設の充実 （多様な人の利用、既存利用への配慮） ㋑子どもの遊び場機能の充実 ・河川敷地内で設置可能な公園遊具の検討（洪水時に撤去可能な遊具等） ・安全性に留意した親水公園の検討 ㋒多様な利用に配慮した空間のつかい方の検討 （スポーツ利用等の既存の利用との共存、ドッグラン利用とその他利用の共存に留意） ㋓新たな魅力づくり ・桜の季節以外の花の植栽、若者たちのデートスポット・イベントやスポーツ以外の魅力づくり ・新市民体育館と連携した民間サービスの誘致（キッチンカー、カフェ）による休憩機能の充実	市
(5)地域交流・健康づくり、スポーツイベントの開催 E）地域交流・健康づくり、スポーツイベント活動の充実 **【自由広場・グランド等**（実施：国・市）】	㋐多様なイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化） ㋑イベント開催時のルールの検討（火の利用） ㋒イベント開催の支援の仕組み・地域連携の検討 ㋑イベント開催時のルールの検討（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、夏場の暑さ対策） ㋓イベント時の車渋滞対策、歩行者等の動線計画 ㋔多様な利用に配慮したイベントの充実（インクルーシブメニュー、バリアフリー教育活動との連携） ㋕イベント実施の情報発信の工夫 ㋖河川敷地内の市民参加型の維持管理体制の検討（清掃、除草、防犯活動等）	市
(6)官民連携・市民協働による公園機能の充実と維持管理体制の構築 1）緑陰の維持・充実**【いきいき広場】**	－	市
C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致 （アウトドア用品・運動遊具貸し出し、バーベキュー場の運営等）**【いきいき広場、自由広場等**（実施：市）】	㋐イベント施設配置のルールの検討（貸出サービス・保管含む） ㋑民間事業者による占用・有料サービス提供・管理体制の検討 ㋒バーベキュー利用のルールづくり（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、環境配慮に留意）	市
(7)「駅」と「かわ」と「まち」の移動を安全、快適、楽しむアクセス環境の整備 1）周辺まちづくり計画と連携した歩行者等、自転車、自動車の動線計画 2）自動車交通量の増加や駐車需要の増加に対応した周辺道路の交通環境の整備（道路・駐車場） 3）熊谷駅南口から新市民体育館前を通り、荒川にアクセスする歩行者動線の整備（人中心のウォーカブルな空間整備、シェアモビリティ、楽しむ移動） **【堤内地（熊谷駅周辺）】**	㋐自動車、自転車、歩行者の動線計画の検討 ㋑荒川公園から河川敷までの連続した賑わい創出の検討、人中心でウォーカブルな交通環境の充実 ㋒駅から堤防までのペデストリアンデッキ整備の検討 ㋓周辺まちづくり計画と一体的な計画検討（駅南口エリアまちづくり、荒川公園周辺再整備計画、かわまちづくり） ㋔荒川公園再整備計画と連携した熊谷駅南口から新市民体育館前の自動車・歩行者アクセス路の検討 ㋕対岸エリアへのアプローチは、将来エリアを対岸に拡大する際に検討	市

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

（ⅲ） 自然環境保全･環境学習ゾーン

【地域の自然環境学習を充実する空間】
【将来の環境を守り育てる担い手づくり】

赤：国土交通省
青：熊谷市

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)自然環境の保全に配慮し、子供たちが安心して自然と触れ合える水辺空間の整備 (2)自然学習イベントの開催支援 (3)地域の環境保全活動の開催支援 1)散策路（舗装無し）(⑮) 2)階段（低水護岸）の整備(⑭) （子ども等の水辺利用の安全性確保に必要最小限の整備）【水辺、低水護岸】	㋐子どもの利用の安全対策	1) 市 2) 国
H)水辺環境の保全、河川敷での在来植生を中心とした野原創出など、荒川の豊かな自然環境を題材とした環境学習活動の充実（学校連携、市民参加） 【水辺】	㋐自然学習イベントの充実（実施体制、実施メニューの具体化）※学校連携 ㋑エリア内の環境に配慮した維持管理のルールづくり（除草剤等） ㋒熊谷市ムサシトミヨ保護センターで実施する自然学習イベントとの連携	市･国 学校 環境団体

（ⅳ） 水辺の憩いゾーン

【地域防災力を高め、水辺の安全利用を周知する地域活動を支援する空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)地域の防災活動や川の安全な利用の普及活動を行うための環境整備 (2)防災活動や川の安全な利用の普及活動に係る地域活動の支援 1)親水護岸(⑬) 2)水辺に近づく散策路(⑫) （階段式護岸による水辺へのアプローチの整備） （散策路位置を下げ、水辺に近づける） 【低水護岸】	㋐親水護岸の規模、構造、環境配慮の検討	1)2) 国･市 ㋐国
G)川の安全な利用の普及活動の充実 【水辺】	㋐川の安全な利用のためのルールや川の危険情報の周知、子どもへの安全教育の充実	国･市

【荒川の水辺を眺め･やすらぎや涼を感じられる憩いの空間】
【安全性や環境配慮に留意したアウトドアや健康づくりを楽しむ空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)水辺の眺望や夏場の涼を楽しむ水際の環境整備 (2)水辺のアウトドアの環境整備 (3)水辺の涼を感じながら楽しむイベント等の開催支援 1)水辺の散策路の整備(⑫) 【水辺･低水護岸】	㋐散策路の安全対策（転落防止） ㋑散策路の快適性の確保（夏場の暑さ対策、歩きやすさや景観に配慮した舗装材の検討） ㋒環境に配慮した親水護岸構造の検討	市
2)親水護岸及び捨て石設置(⑬)（川の流れを弱める） 【水辺】 ･捨て石による治水、親水機能充実の効果 捨石を設置することで、分流水路の流速を軽減し護岸への侵食を軽減するとともに、平常時の澪筋を河道中央へ誘導する ･捨て石による環境、生物多様性の充実の効果 捨石の上流側に土砂が堆積し、在来植生による水際環境（エコトーン）の形成を促し、河川の生物の生息環境の充実を図る	㋐環境に配慮した親水護岸整備の検討 ㋑子供の安全な利用、河川の生き物との触れ合い、レジャーができる空間の検討	国
F)川に親しむ水辺のアクティビティイベントの活動の充実 【水辺･低水護岸（実施：市）】	㋐水辺の健康･スポーツイベント利用の充実（体制、実施メニューの具体化） ㋑夏以外の季節も含め、体が不自由な人も含め市民が集まる水辺の魅力の充実 ㋒遊歩道の安全対策（転落事故防止） ㋓水辺のアクティビティイベント利用の充実（体制、実施メニュー）	市
C)公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致 【水辺･低水護岸（実施：市）】	㋐水辺のアクティビティイベントの運営を担う民間事業者の誘致、占用･有料サービス提供･管理体制のルールづくり ㋑夏以外の季節も含め、体が不自由な人も含め市民が集まる魅力の充実	市

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

（ｖ） 歴史文化体験ゾーン

赤：国土交通省
青：熊谷市

【熊谷らしさや人とのつながりを大切にする空間づくりにより、熊谷市への愛着と誇りを育む空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)計画地周辺の中山道等の歴史文化の見どころを繋ぎ、「かわ」と「まち」を繋ぐ回遊ルートの整備 **(2)SNSを用いた「かわ」と「まち」をつなぐ情報発信** **(3)歴史体験イベントの開催** I)熊谷桜堤など風景の保全、継承の活動支援 **【堤内地（熊谷駅周辺）】**	㋐熊谷桜堤の保全、継承活動の充実（実施体制、実施メニューの具体化） ㋑かわまちづくりを通じた熊谷桜堤の魅力の発信、持続可能な保全継承のあり方（目標、保全活動計画、担い手育成、資金調達等）	市・地域
1)旧熊谷提や中山道の歴史資源を活かした、「かわ」と「まち」を繋ぐ回遊ルート、フットパスの整備 **【堤内地（熊谷駅周辺）】** 2)情報発信施設（案内看板の整備 ） **【堤内地（熊谷駅周辺）】**	㋐熊谷市の荒川ならではの歴史に関する魅力・見どころの発信 ㋑周辺まちづくり計画と一体的な計画検討（南口エリア、北口エリア、まちづくり、荒川公園周辺再整備計画、かわまちづくり）（再掲）	市
J)歴史資源を活用したまちとの連携の活動充実 **【堤内地（熊谷駅周辺）】**	㋐歴史資源に関する魅力の発信 ㋑歴史や文化を学ぶ歴史散策ルートやイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化） ㋒周辺の歴史資源との連携メニューの具体化 ㋓まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり（再掲）	市

【過去の水害の歴史や、治水遺産を学び、災害を自分事化する空間】

取組内容（案）	今後の課題、留意点など	実施主体
(1)治水の歴史を学習・体験するイベントの開催 **(2)流域治水（上下流の自治体連携）を学習・体験するイベントの開催** **1)情報発信施設(⑪)**（過去の水害の歴史や、治水遺産を解説する案内看板の設置）**【堤防等】** K)水災害の歴史、治水遺産の情報発信の充実**【堤防等】**	㋒周辺の歴史資源との連携メニューの具体化	市

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

3-4.2 工程計画

熊谷市荒川かわまちづくり計画の各整備内容に対する工程表を以下に示す。

表8 熊谷市かわまちづくり計画整備工程

種別	事業者	事業内容	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
堤防※	国土交通省	嵩上げ、拡幅		計画設計		工事			
階段式護岸(⑥)	国土交通省	階段式護岸		計画設計		工事			
側帯(⑱)	国土交通省	側帯		計画設計		工事			
堤防坂路(④)	国土交通省	自動車、緊急車両用		計画設計		工事			
堤防坂路(③)	国土交通省	バリアフリーのスロープ		計画設計		工事			
階段(⑰)	国土交通省	階段		計画設計		工事			
水辺利用(⑬)	国土交通省	親水護岸、捨石		計画設計		工事			
自然学習環境(⑭)	国土交通省	階段		計画設計		工事			
休息･休憩施設(②,⑧)	熊谷市	トイレ、ベンチ、あずまや				計画設計	工事		
荒川緑地再整備(⑨,⑩)	熊谷市	駐車場、スポーツ施設･広場等の維持充実、ドックランの整備				計画設計	工事		
水辺利用(⑫)	熊谷市	水辺の散策路				計画設計	工事		
情報発信施設(⑪)	熊谷市	各種サイン、誘導路面標示				計画設計	工事		
地域文化伝承施設(⑯)	熊谷市	桜堤の保全				計画設計	工事		
堤防天端(①,⑤)	熊谷市	歩行者･自転車の通行分離表示、堤防道路の街灯整備				計画設計	工事		
自然学習環境(⑮)	熊谷市	散策路(舗装無し)				計画設計	工事		

※別途、堤防整備事業で整備　　注)体育館と堤防天端をつなぐ連絡橋は、体育館事業とスケジュール調整の上、整備する

3-5.多自然川づくりに関する事項

･低水部の親水護岸の設計にあたり、水理特性、必要な親水機能を踏まえた上で、必要最小現の設置区間とし、生物の生息･生育･繁殖環境と多様な河川景観の保全･創出を図る適切な工法を検討します。
･親水護岸の上流部に設置する捨石の設計にあたり、川の流れを弱め水辺の安全利用を充実する機能とともに、多孔質な自然素材の活用により、魚類の生息場や自然植生による緑被率を高める等、水際の多様な自然環境の保全･創出を図る適切な工法を検討します。

3-6.その他特筆すべき事項

本かわまちづくり計画は、「荒川公園周辺再整備基本計画(案)」と連携し、賑わいの創出、防災、ユニバーサルデザイン機能の向上を図ることを目的として、一体的な整備の実施を検討します。



図25 事業計画予定地

整備内容は検討中のため、変更の可能性有り

＜様式5＞

4.維持管理計画書

4-1.持続的な有効利用に関する計画

新体育館との連携や高水敷の利活用促進に関して、「親子でマラソン大会」「未来の担い手を育成するための建設機械及び建設資材に触れようイベント」の開催を検討します。

また、ワークショップ及び協議会における検討結果より、市民・行政協働のかわまち活動（案）として、下記①・②・③の取組を検討します。

①食、遊び・憩い、文化等の地域交流イベント利用の充実の取組
・バーベキュー、ピクニック、キッチンカー、子供向けイベント、星空観察会など

②周辺住宅地の交通静穏化と地域振興の両立を目指す『体にも地域にも地球にも優しい移動推奨』の取組
・徒歩や自転車による移動を楽しむイベント、健康づくりイベント等の開催
・熊谷駅南口周辺のまちづくりと連携したパーク＆ライド（シェアサイクル）等の取組
③地域との協働による『かわまち野原再生プロジェクト』の取組
・希少在来植生の分布・拡大を目指す環境学習イベント等の開催
（地域との協働による在来野草の育成管理と植生観察、かわまち野原観察会の開催等）

4-2.維持管理計画

日常的な管理は熊谷市。河川占用にて整備した構造物等も熊谷市にて管理を行います。

アンケートやワークショップの市民参画の移行を踏まえ、市民や民間事業者協働による管理のあり方を継続して検討します。

資料３

地域との協働による
希少在来植物の復活への取り組み
『かわまち野原（のはら）再生プロジェクト』

1

2

目的

荒川緑地保全エリアを希少在来植生の復活への拠点となるよう位置づけ、ここを核として地域との協働による希少在来植生の分布・拡大を目指す。

3

目標とする希少在来植物（案）



荒川大麻生公園に移植が成功している上記の在来植物を対象とする。

4

『かわまち野原（のはら）再生プロジェクト』（第1フェーズ）



①育苗

種子から発芽させ、
苗を育てる。

熊谷市立桜木小学校の
児童による



②移植

荒川保全緑地保全エリアへ
移植する。

桜木小学校の
授業の一環として実施

③維持管理

開花、結実するまで
草取り、水やりを継続。





④目標株数到達

採種→種まき→育苗→移植
を繰り返し、保全エリアでの
目標株数到達まで継続する。

5

『かわまち野原（のはら）再生プロジェクト』（第2フェーズ）



⑤誘い込み

声掛けを行って
苗を育ててくれる
地域ボランティアを募る。





⑧メンバー拡大

維持管理してくれる
メンバーを増やす。



⑥苗の受け渡し

地域ボランティアが
育てた苗を小学校に提供。



⑦植付けイベントへ誘う

地域ボランティアも
植付けイベントへ！
小学生との交流







6

『かわまち野原（のはら）再生プロジェクト』（第3フェーズ）



⑨新たな移植地検討

かわまちづくり拠点の上・下流で、新たな移植適地を検討する。



維持管理を含めて
実現可能な場所を選定する

⑫分布拡大

活動を継続し
かわまちづくり保全エリア
を核として
分布拡大を目指す

⑩移植

新たな保全エリアへ
移植する。



⑪維持管理

開花、結実するまで草取り、水やり、害虫駆除を継続。





7

役割分担と当面3年のスケジュール（案）

～カワラナデシコを例に～

※第2フェーズまでのイメージ。

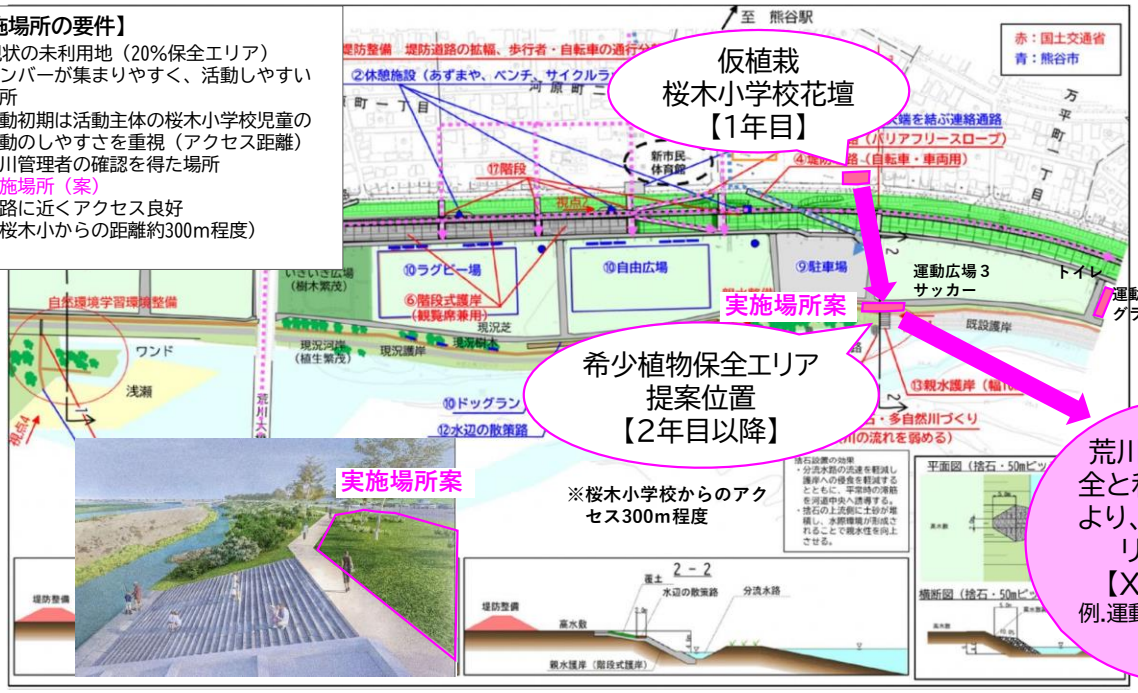
2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県生態系保護協会		種蒔き・ポット育苗→桜木小学校へ引渡し						社会実験での技術指導			技術指導	
熊谷の環境を考える連絡協議会		種蒔き・ポット育苗→桜木小学校へ引渡し						社会実験での技術指導			技術指導	
桜木小学校					植栽 （学校花壇）	水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで）・植栽後の植生観察					種取り （学校花壇）	
熊谷市								社会実験：希望者のみ （大麻生公園野草観察会）		荒川緑地における 植栽区間の基盤整備		

2026年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県生態系保護協会		技術指導			技術指導			**かわまち野原観察会**技術指導			技術指導	
熊谷の環境を考える連絡協議会		技術指導			技術指導			**かわまち野原観察会**技術指導			技術指導	
桜木小学校		種蒔き・ポット育苗			植栽 （かわまち野原）	水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで）・植栽後の植生観察 8～9月に**かわまち野原観察会**（ナデシコ株数調査・植生調査・昆虫調査）					種取り （かわまち野原）	
熊谷市				植栽区間の維持管理 （草取り等）		水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで）・植栽後の植生観察 8～9月に**かわまち野原観察会**（ナデシコ株数調査・植生調査・昆虫調査）					地域ボランティア呼び込み・協力依頼	

2027年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
埼玉県生態系保護協会		技術指導			技術指導			**かわまち野原観察会**技術指導			技術指導	
熊谷の環境を考える連絡協議会		技術指導			技術指導			**かわまち野原観察会**技術指導			技術指導	
桜木小学校		種蒔き・ポット育苗 （ｶﾜﾗﾅﾃﾞｼｺ+その他在来野草）			植栽 （かわまち野原）	水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで）・植栽後の植生観察 8～9月に**かわまち野原観察会**（生物多様性の学習）					種取り （かわまち野原）	
地域ボランティア		種蒔き・ポット育苗 （ｶﾜﾗﾅﾃﾞｼｺ+その他在来野草）		桜木小学校へ引渡し （荒川緑地へ植栽も可）		水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで） 8～9月に**かわまち野原観察会**（生物多様性の学習）					種取り （かわまち野原）	
熊谷市				植栽区間の維持管理 （草取り等）		水やり・草取り（カワラナデシコ開花：7～10月まで）・植栽後の植生観察 8～9月に**かわまち野原観察会**（生物多様性の学習）					地域ボランティア呼び込み・協力依頼	

対象とする荒川緑地保全エリア

【実施場所の要件】
①現状の未利用地（20%保全エリア）
②メンバーが集まりやすく、活動しやすい場所
③活動初期は活動主体の桜木小学校児童の活動のしやすさを重視（アクセス距離）
④河川管理者の確認を得た場所
※実施場所（案）
坂路に近くアクセス良好
（桜木小からの距離約300m程度）



9

推進体制（案）

活動初期は既存の協議会の所属団体を中心に活動の展開を想定

■想定される共創パートナー候補（活動初年度）

分野		団体名
行政	地元自治体	熊谷市
	河川管理者	荒川上流河川事務所
教育	学校	桜木小学校
地域団体	環境団体	公益財団法人　埼玉県生態系保護協会
		NPO法人　熊谷の環境を考える連絡協議会

1） かわまちづくりの活動案

資料４

➢ かわまちづくりの活動案①

実施主体として、河川管理者、熊谷市、市民の関与が必要となる。
各ゾーンとソフト施策案、実施主体の事務局案を示す。

ゾーン	ソフト施策（案）	具体メニュー（例）（下線は地域意見より）	R6年度社会実験実施状況	実施主体		
				国	市	市民
共通	A)地域の防災活動の充実 （防災訓練、防災学習イベント実施）	■地域防災イベント利用（R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大） ・川の防災教室、テント張り体験、炊き出し、豪雨体験	●	○	○	○
スポーツ健康文化交流ゾーン（堤防）	B）堤防散策の魅力づくりの活動充実 （四季を通じた魅力、見どころ）	■魅力づくり（散策ルート・見どころマップ、サイン、駅とかわまちエリアに誘う歩行者動線、PR活動、四季を彩る花壇など） ■健康づくり・地域交流イベント利用（中心市街地との連携、健康マイレージ事業との連携、秩父鉄道サイクルトレインとの連携（荒川上流域との交流）） ・ウォーキングイベント、サイクリングイベント	－		○	○
	C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致	■休憩サービスを提供する民間事業者の誘致（ウォーキングやサイクリングの休憩拠点・荒川を望むカフェ、姉妹都市ニュージーランドのカフェ）　※新市民体育館連携	－		○	○
	D）交通安全、防犯対策自転車の交通ルール・マナー周知活動や交通安全活動充実	■交通安全学習イベント利用 ・自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全教室開催支援	－	○	○	○
スポーツ健康文化交流ゾーン（高水敷）	E）地域交流・健康づくり、スポーツイベント活動の充実	■地域交流イベント利用 （R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大） ・食：バーベキュー、ピクニック、マルシェ、キッチンカー、熊谷地場野菜の販売、いも煮会、お祭り ・遊び、憩い：子供向けイベント（体験）、遊び場づくり（鬼ごっこ、宝さがし、かくれんぼ、インクルーシブ遊具、健康遊具（ぶらさがり棒）、芝滑り）、水遊び、水辺の生き物触れ合い・動物園、ドッグラン、犬のアジリティ大会、ドローン、小型飛行機、パラグライダー、パフォーマンス芸人、のりもの（子どもが好きなもの）こども・幼児が安全に遊べる芝生広場、お話会（※図書館連携）、星空観察会（※プラネタリューム連携） ・文化：音楽イベント（※文化センター連携）	●		○	○
	C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致 （アウトドア用品・運動遊具貸し出し、バーベキュー場の運営等）	■スポーツ健康づくり利用（健康マイレージ事業、スマートシティ事業、公共交通との連携） ・スポーツ体験イベント、スポーツ教室（ラグビー、サッカー、ドッチボール、アスレチック、野球、ボルダリング、インクルーシブスポーツ、マレットゴルフ、テニス、ゴルフ、マラソン） （※地元スポーツ選手連携、地域スポーツチーム、自治会クラブ活動、体育館との連携） ・サウナ ■車の渋滞対策（需要調整：健康マイレージ事業、スマートシティ事業、シェアサイクル等のモビリティ、公共交通との連携） ■清掃活動 ・清掃活動	－		○	○

1） かわまちづくりの活動案

➢ かわまちづくりの活動案②

実施主体として、河川管理者、熊谷市、市民の関与が必要となる。
各ゾーンとソフト施策案、実施主体の事務局案を示す

ゾーン	ソフト施策（案）	具体メニュー（例）（下線は地域意見より）	R6年度社会実験実施状況	実施主体		
				国	市	市民
水辺の憩いゾーン	F）川に親しむ水辺のアクティビティイベント活動の充実 C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致	■地域交流イベント利用 ・水辺のウォーキング、マラソン、サイクリングイベント ・夏の涼を楽しむイベント（礫河原で親水、チェアリングイベントなど） ・川遊び、水遊び、水切り体験、行田へのクルーズ船の運航 ■スポーツ・健康づくり利用 ・カヌー、カヤック ・手漕ぎボート ・魚釣り体験	－		○	○
	G)川の安全な利用の普及活動の充実	■川の安全体験教室利用 （R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大） ・川の安全体験教室、川での遊び方、川での注意事項、川の防災	●	○	○	○
自然環境保全環境学習ゾーン	H）荒川及び河川敷地の豊かな自然環境の保全、創出を目指す環境学習活動の充実	■自然体験・学習利用 （R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大） ・自然観察（水生生物調査、野鳥の観察会、水質調査）、PR活動 ・自然観察（草花・昆虫の観察会、畑） ・子供の白然と共に遊べる場として利用（魚釣り・川遊び体験） ・ムサシトミヨ保護センターの自然学習との連携 ■清掃活動 ・清掃活動、定期ゴミ拾いのイベント	●		○	○
歴史文化体験ゾーン（堤防）	I）熊谷桜堤など風景の保全と継承の活動の充実	■桜堤の保全活動 ・維持管理活動（観察、施肥、水やり、除草、根の保護柵、害虫駆除・予防、落ち葉清掃、樹名板づくり） ・桜堤の保全継承の計画づくり ・ボランティア養成 ■桜堤の魅力のPR活動と資金調達 ・桜の木オーナー制度、ふるさと納税型クラウドファンディングなど	－	○	○	○
歴史文化体験ゾーン（まちとの連携）	J）歴史資源を活用したまちとの連携の活動充実 K）水災害の歴史、治水遺産の情報発信の充実	■歴史散策イベント利用 ・渡しの歴史（舟渡体験）、治水遺産（万平公園旧熊谷堤）、中山道の歴史 ・歴史資源周遊ルートづくり ・歴史解説ボランティア養成 ■かわとまちをつなぐイベント利用 ・南口まちづくり、星川との連携、熊谷染め、雪くまなど荒川に係る歴史資源を活かす連携	－		○	○

1） かわまちづくりの活動案

➢ かわまちづくりの活動案の投票結果（第３回ワークショップ）

第３回ワークショップにおいて、かわまちづくりの活動（事務局案）を提示した。
市民協働の観点が重要・やや重要と感じた活動案に対し、シール投票を行った結果、「地域交流イベント」と「車の渋滞対策」への意見が多かった。

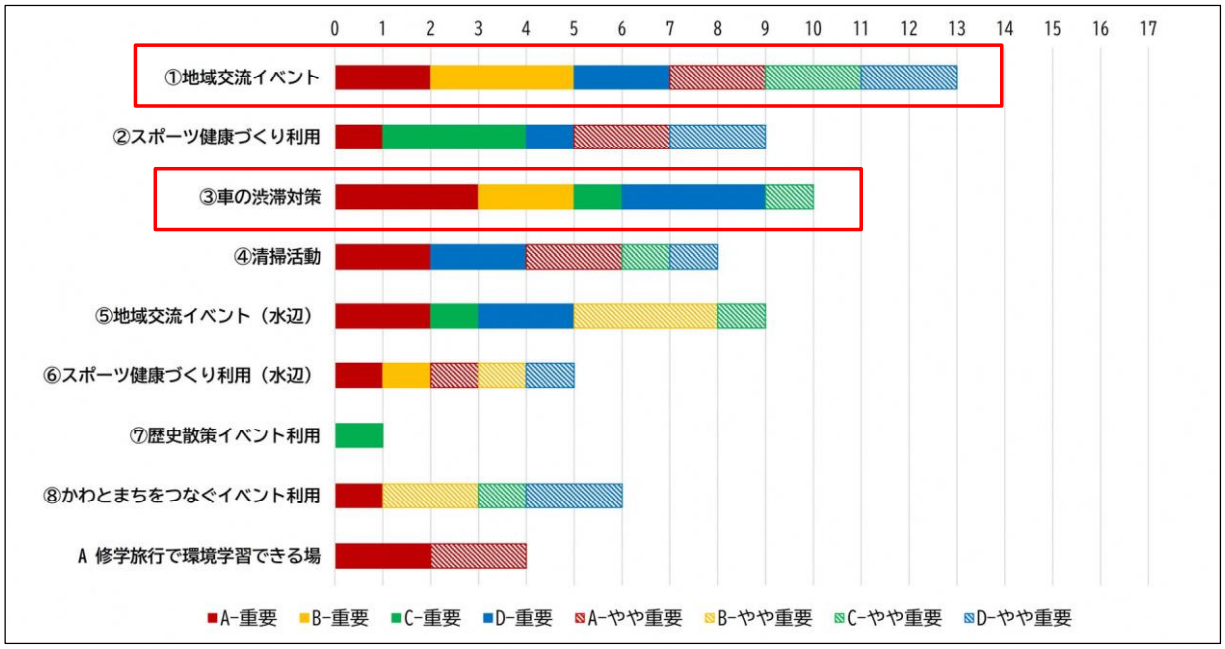


図　かわまちづくり活動案のシール投票結果（第３回ワークショップ）

3

2） 参加の意味について

➢ 澤田俊明（徳島大学人と地域共創センター・客員教授）より

参加の場：成功の状態

- より良いものができる（計画合理性）
  - 良質の結果＝美しい・強い・使いやすい・売れる
- 参加者の意見が最大限反映される（意見反映性）
  - 多くの人の利益＝良いこと
- みんなが納得する手順（手続き正当性）
  - 多くの人の満足＝利益だけでなく，手続き

4

2） 参加の意味について

➢ 澤田俊明（徳島大学人と地域共創センター・客員教授）より



参加の意味

ー人間行動の心理学的原則ー　　長町三生氏

●押し付けの原理　：人は他人から命令されたり押し付けられることを嫌う
●自主性の原理　：人は自ら考えたことは実行する

●参加の原理　：参加は自我関与を強化する
●責任の原理　：参加は責任感を強める
●連帯の原理　：参加は仲間との連帯を呼ぶ

●満足の原理　：自我関与・責任感などが喜び・満足に結びつく

2） かわまちづくり活動案の実施体制（事務局案）

➢ 協議会と部会の設置

かわまちづくり活動案の実施体制として、協議会の他に部会を設置する。

熊谷市荒川かわまちづくり協議会

学識経験者	荒川自治会連合会	熊谷市商工会議所 青年部連合会
熊谷市青年会議所	熊谷市 スポーツ協会	熊谷市観光協会
桜木小学校	熊谷市障害者団体 連絡協議会	NPO法人 子育てネットくまがや
埼玉県 生態系保護協会	熊谷の環境を 考える連絡協議会	熊谷市

連携

熊谷市荒川かわまちづくり部会（仮称）（案）

学識経験者	荒川自治会連合会	熊谷市商工会議所 青年部連合会
熊谷市青年会議所	熊谷市 スポーツ協会	熊谷市観光協会
桜木小学校	熊谷市障害者団体 連絡協議会	NPO法人 子育てネットくまがや
埼玉県 生態系保護協会	熊谷の環境を 考える連絡協議会	熊谷市

2） かわまちづくり活動案の実施体制

➢ かわまちづくり活動案の実施体制

ソフト施策案に対して各団体がどう関わっていただけるか。

※ワークショップで“市民協働の視点が重要”と選ばれたメニュー（下表★）「①地域交流イベント」と「③車の渋滞対策」を中心にご記入いただけますと幸いです

具体メニュー（下線は地域意見より）	各団体で主体的に取り組んでいただけるメニュー
①地域交流イベント利用★ 【メニュー例】 ・食　：バーベキュー、ピクニック、マルシェ、キッチンカー、熊谷地場野菜の販売、いも煮会、お祭り ・遊び、憩い：子供向けイベント（体験）、遊び場づくり（鬼ごっこ、宝さがし、かくれんぼ、インクルーシブ遊具、健康遊具（ぶらさがり棒）、芝滑り）、水遊び、水辺の生き物触れ合い・動物園、ドッグラン、犬のアジリティ大会、ドローン、小型飛行機、パラグライダー、パフォーマンス芸人、のりものなど（子どもが好きなもの）、こども・幼児が安全に遊べる芝生広場、お話会（※図書館連携）、星空観察会（※プラネタリウム連携） ・文　化：音楽イベント（※文化センター連携） **②スポーツ健康づくり利用（健康マイレージ事業、スマートシティ事業、公共交通との連携）** 【メニュー例】 ・スポーツ体験イベント、スポーツ教室（ラグビー、サッカー、ドッチボール、アスレチック、野球、ボルダリング、インクルーシブスポーツ、マレットゴルフ、テニス、ゴルフ、マラソン）（※地元スポーツ選手連携、地域スポーツチーム、自治会クラブ活動、体育館との連携） ・サウナ **③車の渋滞対策（周辺住宅地の交通静穏化と地域振興の両立を目指す『体にも地域にも地球にも優しい移動推奨』の取組）★** 【メニュー例】 ・需要調整：健康マイレージ事業、スマートシティ事業、シェアサイクル等のモビリティ、公共交通との連携 **④清掃活動** 【メニュー例】 ・清掃活動	（記入例） ①地域交流イベント利用 【メニュー】ピクニック 【取組内容】メインで…ピクニックの企画・運営（既存の〇〇イベントとの連携）　など サポートで…参加者（団体の所属者）への呼びかけ、ピクニック備品の手配、当日の運営支援　など

3）今後のスケジュール

➢ かわまちづくり計画　想定スケジュール

熊谷市荒川かわまちづくり計画の今後の想定スケジュールを以下に示す。

種別	事業者	事業内容	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
堤防※	国土交通省	嵩上げ、拡幅		計画設計		工事			
階段式護岸	国土交通省	階段式護岸		計画設計		工事			
側帯	国土交通省	側帯		計画設計		工事			
堤防坂路	国土交通省	自動車、緊急車両用		計画設計		工事			
堤防坂路	国土交通省	バリアフリーのスロープ		計画設計		工事			
階段	国土交通省	階段		計画設計		工事			
水辺利用	国土交通省	親水護岸、捨石		計画設計		工事			
自然学習環境	国土交通省	階段		計画設計		工事			
休息・休憩施設	熊谷市	トイレ、ベンチ、あずまや				計画設計	工事		
荒川緑地再整備	熊谷市	駐車場、スポーツ施設・広場等の維持充実、ドックランの整備				計画設計	工事		
水辺利用	熊谷市	水辺の散策路				計画設計	工事		
情報発信施設	熊谷市	各種サイン、誘導路面標示				計画設計	工事		
地域文化伝承施設	熊谷市	桜堤の保全				計画設計	工事		
堤防天端	熊谷市	歩行者・自転車の通行分離表示、堤防道路の街灯整備				計画設計	工事		
自然学習環境	熊谷市	散策路（舗装無し）				計画設計	工事		

※別途、堤防整備事業で整備　　注）体育館と堤防天端をつなぐ連絡橋は、体育館事業とスケジュール調整の上、整備する

3）今後のスケジュール

論点１：方針
論点２：範囲
論点３：ゾーン・主要機能配置
論点４：活動

現地視察
・地域の魅力探し
・地域課題の共有

5月28日
第1回協議会
・組織の設置
・情報の共有（背景、地域ニーズ、かわまちづくり、論点案）
●論点１、２ 検討①
・今後の進め方について

8月8日
第2回協議会
●論点１、２ 審議
・論点３、４ 検討①
・社会実験 検討①

12月17日
第3回協議会
●論点３ 審議
●論点４ 検討②、審議
・かわまち申請案 検討①

3月27日
第4回協議会
●論点１～４ 決定
●かわまち申請案 決定

R7年度
かわまち申請書 提出

【地域意見の確認の場】

7月6日
第1回ワークショップ
●論点１、２、４ 検討

8月31日
第2回ワークショップ
・論点１ 確認
●論点２、３ 検討
●論点４ 検討
●社会実験 検討(計画)
●かわまちづくり計画と熊谷駅とのつながり等

10月6日
社会実験等実施

11月30日
第3回ワークショップ
●論点４ 検討
●社会実験 検討（評価）
●かわまち申請案 検討

別紙１

表　論点３　ゾーン・主要機能配置（案）

	第３回協議会の主な意見	計画書への反映、今後の対応
NO.1	・第2回協議会での意見「事務局案の自然環境保全ゾーンに加え、スポーツ健康文化交流ゾーン内にも自然環境保全・環境学習ゾーンを一部重ね、自然環境を「創出」する計画としてほしい。追加する場所は、現況坂路の下流の荒川緑地エリア内が良いと考える。」に対し、「別途協議」となるのはなぜか。	・自然環境創出の活動は、継続して活動していくための体制づくりが重要と考え、第3回協議会では別途協議とさせて頂いた。 ・ご意見を踏まえ、関係者と調整を行い、かわまちづくり計画のゾーニング図を更新した。 **【かわまちづくり計画書のゾーニング図の更新事項】** **P.14　図17かわまちづくり計画の基本方針・ゾーン設定と各ゾーンの主要機能** **P.27　図22　熊谷市かわまちづくりゾーニング図** ・スポーツ健康文化交流ゾーン内に自然環境保全・環境学習ゾーンを一部重ね、自然環境を「創出」する計画とした。 ・エリアの位置・範囲は、現状の未利用地、市民等の活動メンバーが集まりやすく、活動しやすい場所、植栽管理に無理のない範囲など、今後の持続的な活動の展開を重視し選定した。
NO.2	・「荒川河川敷の保全と利用のあり方」での「荒川緑地」において、グランド等の利活用は8割、残り2割は自然環境の保全、再生、創出することが示されており、今回のかわまちづくり計画においては、ネイチャーポジティブの視点から、この2割の部分は生物多様性の創出または改善していくという位置づけがふさわしいと考え意見を申し上げた。 ・かわまちづくり支援制度実施要綱では令和6年度より、ネイチャーポジティブの観点から、かわまちづくり支援制度の中で自然環境の保全・創出に関する取組を支援していくと位置づけられている。高水敷における自然環境創出の取組について、河川管理者の財政的な支援のもと進められるよう、かわまちづくり計画の取組に位置付けることを再検討頂きたい。	・ご意見を踏まえ、関係者と早々に調整を行い、かわまちづくり計画に自然環境創出の取組として位置づけ追記した。 **【かわまちづくり計画書の追記記載事項】** ■P.20　1-7生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組】 ③河川敷地での在来植生を中心とした野原の創出や水辺へのエコトーンの保全、これらをフィールドとする環境学習活動の充実（学校連携、市民参加） ■P.21　2.ソフト施策の個別施策計画書 2-3提案事業の概要 ⑦河川敷での在来植生を中心とした野原創出など、荒川の豊かな自然環境を題材とした環境学習活動の充実 ■P.38　4.維持管理計画書　4-1持続的な有効利用に関する計画 ③地域と協働による『かわまち野原再生プロジェクト』の取組（第４回協議会資料　資料３参照） ・希少在来植生の分布拡大を目指す環境学習イベント等の開催（地域との協働による在来野草の育成管理と植生観察、かわまち野原観察会の開催など）

表　論点4　活動の展開（ハード・ソフト施策）（案）

	第３回協議会の主な意見	計画書への反映、今後の対応
NO.3	・社会実験や自然観察会の参加人数が少なかったという課題がある。未就学児を対象とする場合は土日開催だと親子で参加しやすいが、小学生を対象とする場合は土日の集客が難しいのではないか。	・市としても、荒川自然観察会の活動の展開（対象小学校の拡大）を目指していきたいと考えている。 ・ご意見を踏まえ、対象小学校の拡大について、今後継続して検討していく。
	・自然観察会や川の安全教室には、生活圏内に川があり川遊びに慣れている子どもだけではなく、生活圏内が川から遠く、川遊びに慣れていない子どもにも参加頂くと良いのではないか。また、学校の授業の一環としてできればよいのではないか。	
	・10/6に実施されたかわまちづくりの社会実験の遊びの空間づくりの取組について、次年度は子育てネットくまがやが実施している子育て支援イベント（くまSUNフェスタ等）と合同で実施することをぜひ提案したい。かわまちづくり活動と地域活動の双方の取組充実につながる。	・河川空間の持続的な利活用のため、今後は地域団体や民間の活動に熊谷市が支援する形を目指していきたいと考えている。 ・ご意見を踏まえ、次年度以降の社会実験においては、地域団体や民間活動との連携を検討していく。
NO.4	・小学校の教育課程の中に自然観察会を位置付けられたら良いと考えている。 ・ただ、子どもの参加数が20人を超えると運営が難しいと感じた。参加募集の範囲を広げる場合は、回数や日程を分けて開催するなどの工夫が必要になってくる。適当な参加人数は今後検討が必要である。 ・クラス全員で行った場合は効果的な学習にならないのではないかと感じたため、良い体験・学習にするためには今回参加いただいた6人に少し増える程度が良いのではないかと感じた。 ・授業の一貫として取り組む場合は、規模や体制上の問題から、今回の社会実験で実施した内容と学習目的やメニューを変えて実施する必要があると考える。	・ご意見を踏まえ、自然観察会の教育内容の充実や安全管理、活動展開に向け、規模や内容、体制について、今後継続して検討していく
NO.5	・親水護岸の一部の踏面を広くして、ベビーカーをたたまずに置きながら休憩出来るバリアフリー的な工夫をしてほしい。	・ご意見を踏まえ、詳細設計を実施するにあたり、継続して検討していく
NO.6	・駐車場の東に位置する運動広場は何か整備をするのか。	・本計画では荒川大橋から駐車場までが整備エリアであり、運動広場は対象外であるが、芝生の痛み具合や利用形態を考慮し、整備エリアと合わせて整備するか今後検討する予定である。
NO.7	・市民の意見を反映しすぎたことで、現状自由に使える場所が狭くなったり予約制になったりなど、出来上がったものが今よりも使いづらくならないよう注意してほしい。	・ご意見を踏まえ、現状の利用が使いづらい内容とならないよう、自由広場などは通常時は自由に使用できる場所、イベント時はイベント利用ができる設備が整えられるよう検討する。

表　論点4　市民・共生協働のかわまちづくり活動（案）

	第３回協議会の主な意見	計画書への反映、今後の対応
NO.8	・協議会委員以外で市民活動をしている団体を集めた意見交換会などは計画しているか。	・ご意見を踏まえ、必要に応じて市民活動団体との意見交換会の実施について検討していく。
NO.9	・ワンド部の護岸について、令和元年台風を受け、荒川上流河川事務所では流心が市街地側に寄らないよう流路の改変を行ったと記憶している。治水の安全を確保した上で多自然護岸（生きものの生育環境充実）とすることは可能なのか。 ・荒川大橋の橋脚工事に伴って瀬替えを行うと聞いている。ワンドや治水上の扱いが変わってくるのではないか。	・ご意見を踏まえ、河川管理者と協議の結果、多自然護岸の設置は無しに変更する。
NO.10	・荒川緑地内で利用8割、自然2割を検討するのがよいのではないか。	NO.2の回答に示す